



厚生労働省 令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業
中国・四国ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター
『中国・四国 Artbrut Support Center passerelle』

令和5年度 事業報告書



Passerelle Report

もくじ

- 3 はじめに
- 4 エッセイ「アートと福祉が逆に問うもの」 北添紫光

中国・四国ブロックの各支援センターの取り組み

- 6 鳥取県 あいサポート・アートセンター
- 10 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ
- 14 岡山県 岡山県子ども・福祉部障害福祉課
- 16 広島県 広島県アートサポートセンター
- 20 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
- 24 香川県 香川みんなのアート活動センター-KAGAWAMOVES
- 28 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター
- 32 高知県 藁工ミュージアム 分室

主催事業 アート活動をはじめようとする事業所のファーストステップに伴走する企画

- 38 「できるとできないの間で」 平谷尚大
- 40 島根県 えすばす
- 42 広島県 つくしんぼ作業所
- 44 山口県 チャイルドハウス ひなたぼっこ
- 46 徳島県 淡島学園
- 48 香川県 在宅療養ネットワーク ゆずぼっぼ
- 50 終了後のアンケート
- 52 座談会「ファーストステップを通して」

主催事業 パスレルメタバースプロジェクト

- 59 事業趣旨「共に生きるために」 土谷 享
- 60 Blue Sky Stadium 野球盤ができるまで
- 62 Blue Sky Zoo 動物園の動物たち

- 64 その他の取り組み
- 65 エピローグ「メタバースプロジェクトから思うこと」 岡村忠弘

はじめに

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle（パスレル）が、障害者芸術文化活動普及支援事業の中国・四国ブロックの広域センターとして活動を開始して、今年度で4年目を迎えました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、大きな変化が起こった年となりました。少しずつ以前のような日常が戻りつつあります。各地の支援センターの皆さんも、状況に応じて柔軟に対応し、企画を変革してこられました。

また、今年度は、当センター主催事業として、「メタバース内でのギャラリー事業」を実施しました。この企画は、芸術文化活動（鑑賞、創造、発表等）に参加する機会の確保を主目的としつつ、情報保障にも最大限考慮した空間を構築することで、障害の有無に関わらず、「誰もが楽しめる」事業として実施しました。

「メタバース内でのギャラリー事業」は発表・創造・鑑賞の機会の拡張の可能性を大いに秘めていると感じました。本事業で企画した『Blue Sky Zoo』においてメタバースの空間を所狭しと多種多様な作品が動き回る様子は躍動感に満ちており、作家さんの思いがダイレクトに伝わってくるような気がしています。本事業に取り組む私たちにとって新たな気づきを与えてくれる企画となりました。本書が、本事業を知っていただくきっかけになるとともに、障害者の芸術文化活動普及支援の一助になれば幸いです。

中国・四国Artbrut Support Center passerelle
センター長
岡村 忠弘

「アートと福祉」が逆に問うもの

北条紫光

障害者芸術文化活動普及支援事業に関わらせて
いただいて5年になるが、最近今までと少し違った事を考え
出した。というのもそもそも私達日本人はどれほど日々の中でアートを
楽しみ、アートと触れ合い、アートをおこなってきたのだろうか？

私が所属する広域センターパステルの活動の中に
ファーストステップ事業なるものがある。今まで事業所内でアートプログラム
をおこなったことがない事業所の方に資金とノウハウを提供し
第一歩・第一回目を踏み出してもらった。事業だ。

このときにみなさん必ずと言っていいほど口にするのが「芸術は全くわからない
今まで触れてこなかった」というような主旨の発言である。実際はそうでもなく
楽器を楽しみその他アートやアーティストに興味のある方はいらっしゃる。
謙遜もあるのだろうが自分の人生の中で能動的にアートに関わった記憶
が少ない事による不安もあるのだろう。例えば、絵を観に行き買ってきて、
部屋のどこに飾るか思案し、飾ったことでその絵が視界に入るたびに感じる

感情。知り合いの舞台を観に行ったり、自分も参加したりして生まれる感動や
経験。アートと関わることは、そうだった事。積み上げでもある。

もちろんトップアーティストのテレビ等のメディアでの露出もアートに含まれるが
テレビの中のアートはアート全体の中では一部過ぎて絶対に全体像には
届かないほど局所的なものだ。しかもメディアでのアートはどうしても受動的
なので受け手側の理解力を減退させていく傾向があるのであまり
良いとは思えない。(大手メディアは宣伝ツールなので仕方ないのであるが)

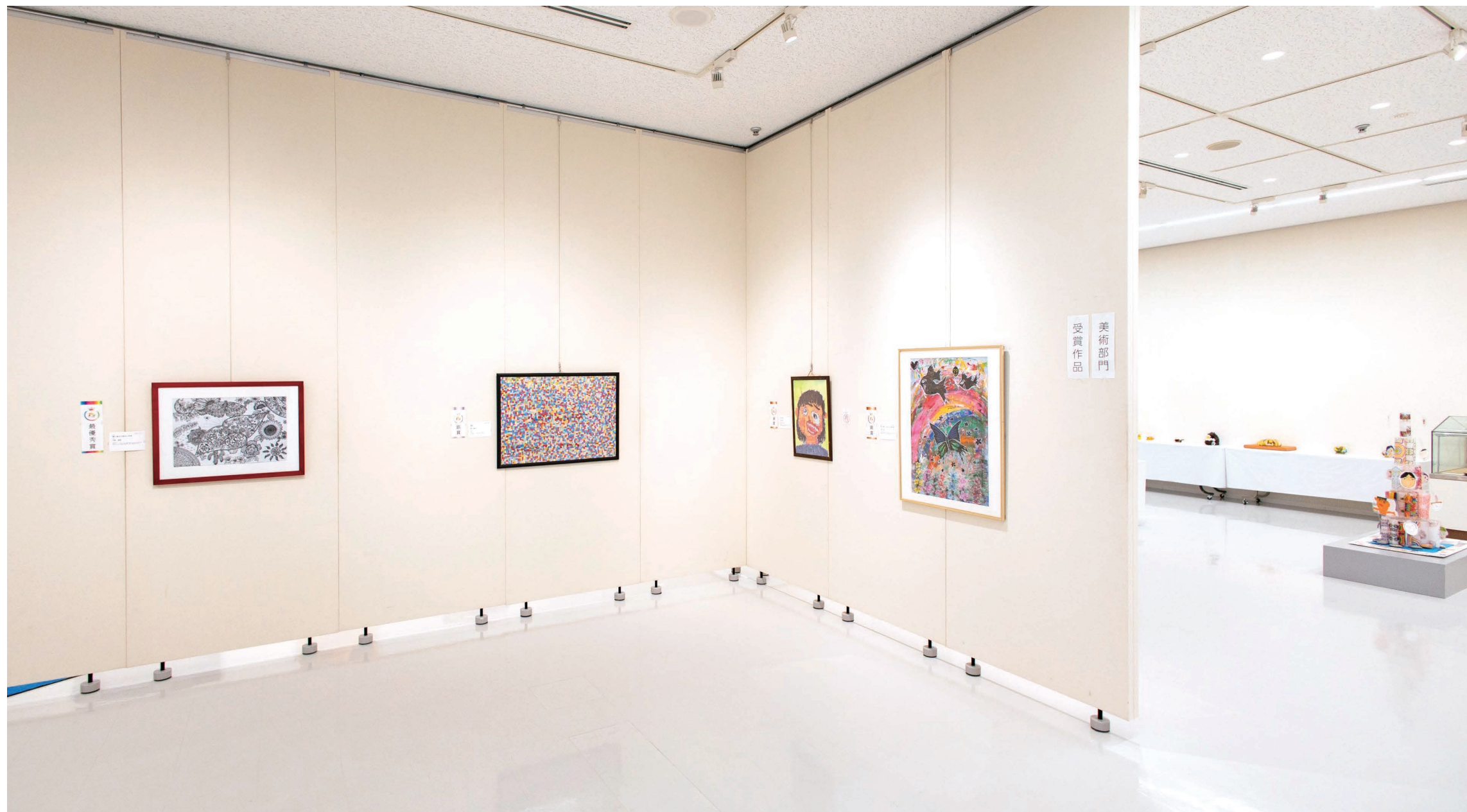
変に厳しくなる必要はないが、自分自身がアートに触れることで得た感情や
経験こそがこのプログラム(事業)の根底に必要な素地の一つではないだろうか？
もちろんそれは上も下もなく、やむを得ない立場の人こそ実際に生身で
アートプログラムや研修に触れその必要性を圧倒的な熱量と建設的な論理で
この日本全国で共有して行くことも一つ必要である気がする。

特定の誰かにアートが必要なのではなく、全ての人に必要だから
障害者にもアートが必要なのであると。

最後に世の中はこの先ますます者が詰まってくだろう。そんな世の中では
無駄だと思われればすぐに切り捨てられてしまう。たかうらなこそ
アートは全ての人に必ず必要だと強く訴えねばならない。

鳥取

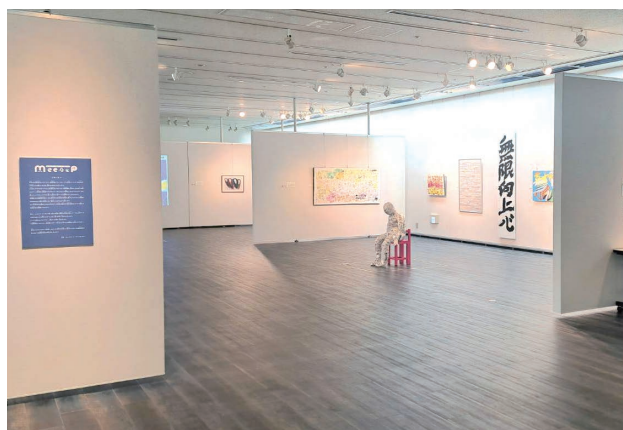
支援センター名／あいサポート・アートセンター



展覧会

鳥取県立バリアフリー美術館
グランドオープン記念イベント MeetuP vol.01
 2023.6.16(金)～6.25(日)
 会場:とりぎん文化会館
 「鳥取県立バリアフリー美術館」のオンライン上の常設展示室1～3に収蔵した32作品を展示。創作活動のトークイベントも。

鳥取県立バリアフリー美術館
グランドオープン記念イベント MeetuP vol.02
 2023.8.16(水)～8.24(木)
 会場:米子コンベンションセンター
 「鳥取県立バリアフリー美術館」のオンライン上の常設展示室4、5に収蔵した22作品を展示。創作活動のトークイベントも。



▲鳥取県立バリアフリー美術館グランドオープン記念イベント MeetuP vol.01

展覧会

鳥取県はーとふるアートギャラリー合同展
「はーとをふるわせて3」
 2023.10.28(土)～2023.11.8(水)
 会場:ギャラリーからふる
 障がいと共に生きるアーティスト達の作品を気軽に鑑賞できる「鳥取県はーとふるアートギャラリー」の合同展。

あいサポート・アートとっとり展の企画運営
 2023.12.9(土)～12.17(日)、
 2024.1.10(水)～1.17(水)、
 2024.1.25(木)～1.30(火)
 会場:米子美術館,倉吉未来中心,鳥取県立博物館
 鳥取県内の障がいのある人々を対象に募集したアート作品を一堂に展示する展覧会。
 主催:鳥取県

展覧会

表敷功作品展「わにかいぬかわかりません」
 2024.3.8(金)～3.12(火)
 会場：米子市美術館
 鳥取県米子市にある社会福祉法人もみの木福祉会でアート活動を行っていた表敷功さんの作品展。



▲表敷功作品展「わにかいぬかわかりません」

イベント

フクシ×アートフォーラム
「新しいフクシの形、アートの形」
 2023.11.19(日)
 会場：丸由百貨店5Fテラス
 フクシ×アートWEEKs 2023連携企画。フクフクプラス代表 福島治氏、山陰ご当地フォント実行委員会 遠藤氏・松下氏

あいサガ展連携企画
映画「地蔵とリビドー」上映会&トークショー
 2023.12.10(日)、2024.1.28(日)
 会場：米子市立図書館、鳥取県立博物館
 滋賀県にあるやまなみ工房のドキュメンタリー映画の上映会と山下施設長と地元施設のトークショー。

▼フクシ×アートフォーラム「新しいフクシの形、アートの形」



あいサポート・アートセンターからのお知らせ
 鳥取県立バリアフリー美術館
 グランドオープン記念イベント

「MeetuP vol.01」
 とりあめ文化会館イベントホール(展示室)
 2023年6月16日(金)～25日(日)

「MeetuP vol.02」
 米子市インフォメーションセンター(BIGSHIP)情報プラザ
 2023年6月16日(金)～24日(木)

Hugs 次号のお知らせ
 2023年 秋 発行予定
 特 集：羽合ひかり
 コラム：あいサポート・アートセンターはこんなところ！

Hugs 2023年夏号 vol.5
 2023年8月1日発行

発行：あいサポート・アートセンター
 〒482-0821 鳥取県米子市米子2563
 TEL:0858-33-3331
 FAX:0858-33-4114
 E-MAIL: totori.asac@hugs.jp
 HP: https://art-info.ceris-jmqd.free.com/

取材・編集：高田美智
 撮影：山口隆雄、佐藤 Photo Studio(株)のり
 デザイン：山下真由
 協力：鳥取県

表現することを自分ごととして考える
 特集：「鹿野第二かちみ図」
 コラム：あいサポート・アートセンターはこんなところ！

「Hugs」という言葉には、「愛情をもって抱きしめる」「こだわりを守り続ける」「自分自身を幸運だと思う」との意味があります。フリーペーパーHugsは、障がいと共に生きながら創作や表現活動をしている方々や施設を取材し、その活動の様子や日々の思い、そこから広がる豊かな世界を伝えていくことを目的にしています。

あいサポート・アートセンターはこんなところ！
 2023年6月、9月、12月 2024年3月
 障がいと共に生きるアーティスト達とそこにある世界を発信noteも運用。

「ユニバーサル・ツーリズム鳥取」への協力
 2023.11.3(金)～11.30(木)
 会場：三朝温泉5旅館
 美術旅館と称し旅館に作品展示。ポスター、WEB連携も。
 主催：全国手をつなぐ育成会連合会、日本芸術文化振興会、文化庁

▲フリーペーパー Hugs

その他

鳥取県立バリアフリー美術館の管理運営
 2023.4.1(土)～2024.3.31(日)
 障がいのあるアーティストの作品に特化したオンライン上の美術館の管理運営、3回の企画展の実施、作品の発掘調査。

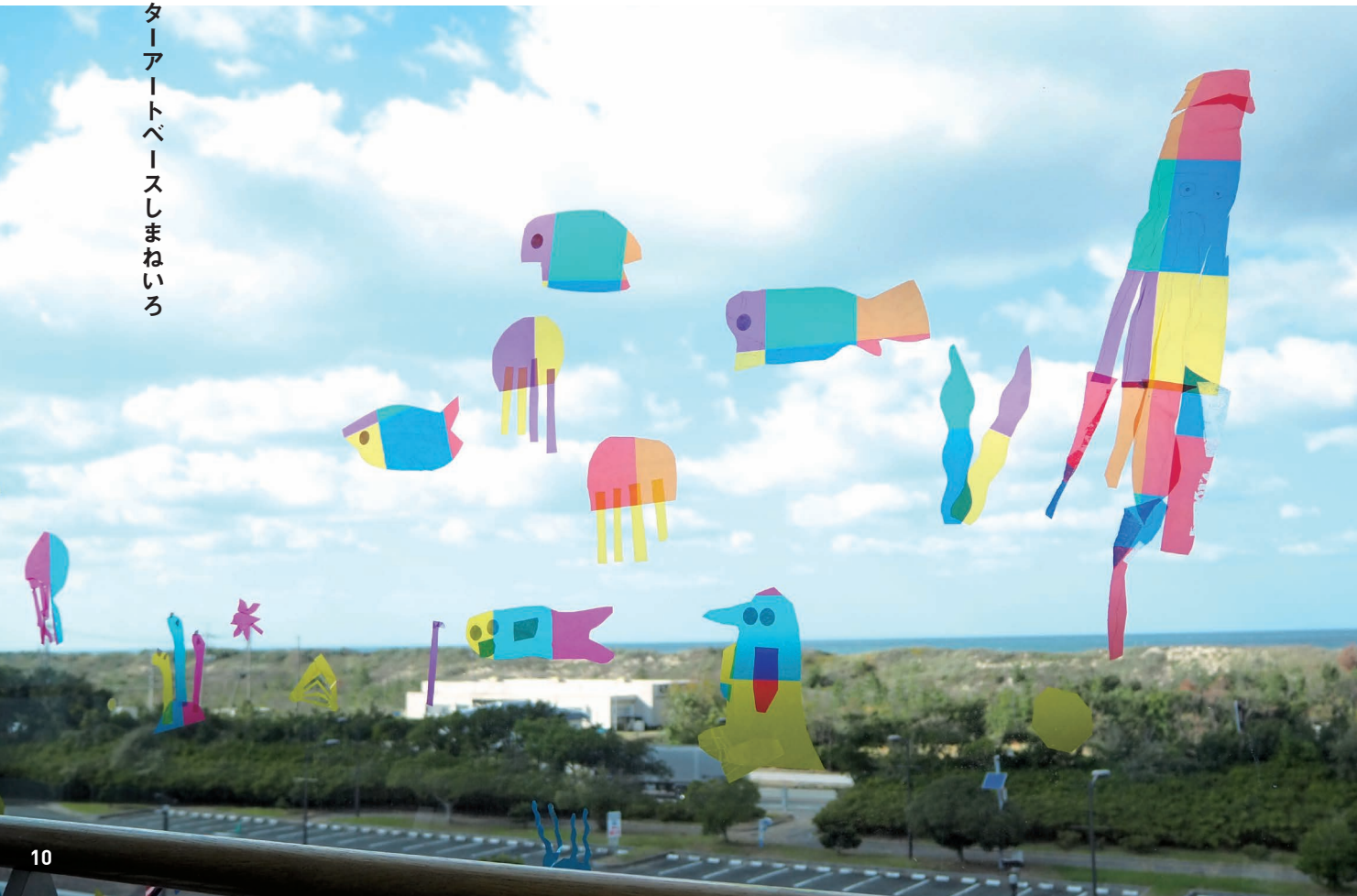
障がい者アート活動支援事業補助金
 障がいのある方を含むグループ・団体が、作品展への出展や発表会への出演などを目指し、指導者等の指導を受けながら行うアート活動等に対して支援を行う制度。

フリーペーパーHugsの発行
 2023年6月、9月、12月 2024年3月
 障がいと共に生きるアーティスト達とそこにある世界を発信noteも運用。

「ユニバーサル・ツーリズム鳥取」への協力
 2023.11.3(金)～11.30(木)
 会場：三朝温泉5旅館
 美術旅館と称し旅館に作品展示。ポスター、WEB連携も。
 主催：全国手をつなぐ育成会連合会、日本芸術文化振興会、文化庁

島根

支援センター名／島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ



展覧会

アクアート-うみ・いろ・かたち展-

2023.11.29(水)～12.11(月)

会場:島根県立しまね海洋館アクアス ペンギン館
アクアート-しずかでにぎやかなうみ-で創作した作品の展示会。土・日曜日には海の見える大きなガラス面にステンドシールを貼るワークショップやAR鑑賞も開催。

主催・運営:島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

共催:島根県立しまね海洋館アクアス、島根県立大学 地域政策学部 地域づくりコース 村岡ゼミ、アトリエ・スノイロ

令和5年度 島根県障がい者アート作品展

2023.12.8(金)～12.10(日)

会場:島根県立美術館ギャラリー

島根県内在住の障がいのある方のアート作品の展示、公開審査による支援者向けワークショップと審査、表彰式(オープニングセレモニー)。招待作品の展示。

主催:島根県、島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

運営:島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

連携:社会福祉法人島根県社会福祉協議会、島根県知的障害者福祉協会、公益財団法人しまね文化振興財団、島根県障害者社会参加推進センター、島根県立大学・島根県立大学短期大学部、鳥取県「あいサポート・アートセンター」

展覧会

令和5年度島根県障がい者アート作品展巡回展 in グラントワ

2024.2.23(金)～2.25(月)

会場:島根県芸術文化センター「グラントワ」多目的ギャラリー

令和5年度島根県障がい者アート作品展の受賞作品38点の展示と招待作品の展示、絵付け体験のワークショップ。

主催:島根県、島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

連携:アトリエ・スノイロ、鳥取県「あいサポート・アートセンター」

イベント・ワークショップ

粘土でおぼけを作ろうワークショップ

2023.8.1(火)

会場:社会福祉法人いわみ福祉会 放課後等デイサービス バンビーノ

放課後等デイサービスの児童に粘土を思いのままにこねておぼけを作るワークショップ。成型後焼成し返却。

主催:島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

連携:立花 航

伝わる展示のつくり方-立体作品編-

2023.9.16(土)

会場:浜田市世界子ども美術館 第1・2多目的ホール
福祉サービス事業所等の支援者や展示に関心のある方を対象に、基本的なアート展示の見せ方を学ぶ講座。昨年は平面作品テーマに、今年度は立体作品をテーマに実施。グループ毎の立体作品の展示実践やキャプションづくりのワークショップにも取り組んだ。

主催・運営:島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

連携:鞆の津ミュージアム、アトリエ・スノイロ

遡摩分教室わくわくプロジェクト

2023.6.20(火)～10.31(火)

会場:島根県立出雲養護学校遡摩分教室

三瓶こもれびの広場木工館

大田市市内での課外授業

遡摩分教室生徒の描いた大田市のイメージイラストを三瓶こもれびの広場木工館が大田市の特産品をアピールするTシャツのデザインに採用・商品化する取組み。プロジェクトに当たり地域リサーチ、イラスト創作ワークショップ、創作したイラストで学校でもグッズ制作を行い地域連携に活かすなど学校活動にも広がりを見た。

主催:島根県立出雲養護学校遡摩分教室、三瓶こもれびの広場木工館

連携:島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ、アトリエ・スノイロ

▼令和5年度島根県障がい者アート作品展巡回展 in グラントワ



▲令和5年度島根県障がい者アート作品展 公開審査会の様子

イベント・ワークショップ

アクアート -しずかでにぎやかなうみ-

2023.11.7(火)

会場：島根県立しまね海洋館アクアス ペンギン館
障がい者を対象としたアート創作イベント。休館日の水族館を閲覧した後、海の生き物を眺めながら絵画・粘土・ステッチシール貼り等好きな創作を気ままに行う。児童・成人の2部構成で実施。

主催・運営：島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

共催：島根県立しまね海洋館アクアス、島根県立大学 地域政策学部 地域づくりコース 村岡ゼミ、アトリエ・スノイロ

にぎやかな学校

2023.11.23(木)

会場：HEKICHI KAKINOKI 僻地柿木

にぎやかな日々 in グラントワ

2024.1.21(日)

会場：島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール
グラントワダイバーシティいわみ事業 文化庁委託事業「令和15年度障害者等による文化芸術活動推進事業」障がいのある無しに関わらず楽しめる「にぎやかな音楽隊」によるミニコンサート。ゲストに「チリンとドロン」、地元ミュージシャンなどを招く。体を揺らしたり、踊ったり、リラックスした雰囲気。音楽会用鑑賞サポートや、コンサートに楽しく参加できるための自分で描くメダル作りワークショップも実施。

主催：文化庁、島根県、(公財)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場)

共催：島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ



▲アクアート -しずかでにぎやかなうみ- 制作風景

▼にぎやかな学校 音楽隊と一緒に





岡山

▲ノウフクマルシェ (ステージイベント)

支援センター名／岡山県子ども・福祉部障害福祉課

展覧会	<p>障害のある人のアートギャラリー 2023.4.3(月)～2024.3.29(金) ※月ごとに作品を入れ替え 会場：県庁県民室(8月、12月、2月以外)、岡山空港(8月)、きらめきプラザ(12月)、岡山県生涯学習センター(2月) 福祉施設等の利用者が制作した、絵画等の平面作品を展示。</p>
イベント	<p>ノウフクマルシェ(ステージイベント) 2023.10.29(日) 会場：下石井公園 障害のある方やその仲間たちによる、ピアノ演奏、鍵盤ハーモニカ、手話歌等を実施。</p>
	<p>ゆうあい文化祭 (岡山県知的障害者福祉展開催事業) 2023.12.16(土)ほか 会場：西大寺緑花公園百花プラザ ほか 県内の施設利用者による、写真や作品等を展示。 主催：岡山県、岡山県知的障害者福祉協会</p>



その他

- 文化施設におけるUD(ユニバーサルデザイン)セミナー**
 2024.2.14(水)
 会場：岡山県消費生活センター研修室
 多様な来館者に配慮した対応に役立つため、文化施設の職員等を対象にセミナーを開催。
- 関係機関との連絡会議**
 2023.6.8(木)
 オンライン開催
 今年度の支援センターの取組報告、意見交換等を実施。
- 情報発信**
 2023.4.3(月)～2024.3.29(金)
 県内外の文化芸術に関する情報を、ホームページを通じて発信。



▲左：アートギャラリー(12月きらめきプラザ)／右：アートギャラリー(8月岡山空港)



▲文化施設におけるUD(ユニバーサルデザイン)セミナー

広島

支援センター名／広島県アートサポートセンター

鑑賞会

鑑賞支援 みんなで楽しむ
「第3回おしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートを見よう～」
2024.2.24(土)
会場：広島県立美術館 2階展示室
知的障がいのある方を対象にした対話型鑑賞会。
ファシリテーター：学芸員 森 万由子 氏
主催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター



ワークショップ

助成事業「アートの巣箱」
集まれ!ぼくらの星ここにいるよ
2024.1.12(金)～1.14(日)
会場：JMS アステールプラザ 1F ギャラリー
ダンスワークショップ。
主催：ART COMPLEX HIROSHIMA
協力：KAZOO
助成：令和5年度広島県障害者文化芸術活動支援事業

体験ワークショップ「書道を楽しもう」
2023.11.11(土)
会場：広島市東区民文化センター 美術工芸室
「書道」を楽しむワークショップ。
講師：広島大学 大学院人間社会科学研究所・教授 教育学部
副学部長 松本仁志 氏
主催：広島県
実施団体：広島県アートサポートセンター

専門家派遣（単発型）「書」を楽しもう
2023.6.10(土)
会場：西原さんの自宅
「書」に取り組むワークショップ。
講師：高津佳代子 氏
実施団体：広島県アートサポートセンター

専門家派遣（継続型）「創作」を楽しもう
2023.11.10(金)、11.24(金)、12.8(金)、12.22(金)、
2024.1.26(金)、2.16(金)、3.8(金)、3.22(金)
会場：就労継続支援 かなで
創作（染め、編み物、立体作品、スタンピング）の体験。
講師：細川 泉 氏
実施団体：広島県アートサポートセンター

おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ
①2023.6.25(日)、②8.27(日)
③10.22(日)、④12.17(日)
会場：広島市中央公民館
⑤2024.2.25(日)、⑥3.10(日)
会場：三篠公民館
演劇の手法を使った表現ゲームや、チームでの演劇作品
創作の体験。
主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明
協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、アートサポートセンターひゅる
後援：広島県

演劇公演

ゆかいに共生ゆーとびあ企画
おきらく劇場ピロシマによる演劇公演
『まいるまいるまいる』
2024.1.13(土)～1.14(日)
会場：WAKO ゲバントホール
障害の有無に関係なく誰でも一緒に演劇を楽しめる劇団
「おきらく劇場ピロシマ」による演劇公演。
主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明
協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、広島県アートサポートセン
ター、烏丸ストロークロック、医療法人社団友和会
後援：公益財団法人ひろしま文化振興財団
協賛：合同会社kitaya505、ラボチ、合同会社nochi、大体2mm
経済産業省コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(ラ
イフエンタメ産業の基盤強化支援)JLOX補助事業



▲体験ワークショップ「書道を楽しもう」

イベント

アートセミナー&座談会 1
もしも「新しい表現活動をしたい」「絵を描きたくない」と言われたら
 2023.8.5(土)
 会場：東広島芸術文化ホールくらら 工作室
 太田川学園の事例を通して、表現活動のサポートをする環境づくりについて考え、創作現場に関わる権利について学ぶ。
 講師：[取り組み発表]太田川学園 羽鳥智裕 氏、[権利保護について]弁護士 三浦友美 氏
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター

アートセミナー&座談会 2
もしも「絵が欲しいよ(買いたいよ)」と言われたら
 2023.9.5(火)
 会場：ウッドワンさくらびあ 会議室
 アートスペースからふるの事例を通して、作品の可能性を知るとともに発表や二次利用の際に気を付けるポイントについて学ぶ。
 講師：[取り組み発表]アートスペースからふる 理事長 妹尾恵依子 氏、[権利保護について]弁護士 三浦友美 氏
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター・鳥取県あいサポートアートセンター

アートセミナー&座談会+ワークショップ 3
もしも「書道がしたいよ」「きれいな字が書きたいよ」と言われたら
 2023.11.11(土)
 会場：広島市東区民文化センター 美術工芸室
 書道をサポートする際に必要なポイントを学ぶ。
 講師：広島大学 大学院人間社会科学研究科 教授 教育学部 副学部長 松本仁志 氏
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター

アートセミナー&座談会 4
もしも「アートって何？」って言われたら、そして思ったら
 2023.12.1(金)
 会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ 研修室C
 「ぬか つくるとこ」の取り組みを通して「アートの考え方」についてみんなで考える。
 講師：ぬか つくるとこ 代表 中野 厚志 氏
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター

ネットワークの構築「のらのらの会」
 ①2023.5.31(水)
 会場：社会福祉法人ひとは福祉会
 社会福祉法人ひとは福祉会の視察と座談会。
 ②2023.7.20(木)
 会場：ウッドワン美術館
 鑑賞会と座談会。
 ③2023.9.20(水)
 会場：ウェンディひと・まちプラザ
 アート・ルネッサンスの展示作業と交流会。
 ④2023.10.12(木)
 会場：広島市現代美術館
 対話型鑑賞会と意見交換会。
 ⑤2024.1.25(木)～1.30(火)
 会場：ギャラリー宮郷
 展覧会「ハナサクモリの冒険特別編～星とカラフル～」
 ⑥2024.3.4(月)～3.6(水)
 会場：鞆の浦燧治、鞆の浦さくらホーム、ぬか つくるとこ、ありがとうファーム、旭川荘
 広島県知的障害者福祉協会 事業部会 文化・芸術活動の部 圏域委員会の事例発表会の参加。鞆の浦さくらホーム、ぬか つくるとこ、ありがとうファーム、社会福祉法人旭川荘の視察。座談会。
 のらのらの会は、様々なバックグラウンドを持つ人々が集まり、年齢や業種、キャリアの垣根を越えて、共通の趣味や感じたことを共有し、意見交換を行う場です。広島県内で行われている活動やその方向性を共有し、従来の研修やセミナーでは得られない現場での経験を通じて学び合います。
 主催：のらのらの会
 協力：太田川学園、ひとは福祉会、友和の里、ほっとスペースぼんぼん、広島県知的障害者福祉協会事業部会 文化・芸術活動の部 圏域委員会、art201、株式会社ウッドワン、広島県アートサポートセンター

人形劇「一寸法師」とお楽しみ交流会
 2024.3.9(土)
 会場：広島マリーナホップ
 デフ・パペットシアター・ひとみによる人形劇「一寸法師」とお楽しみ交流会。
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター
 後援：一般社団法人広島市ろうあ協会、社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会、広島県手話サークル連絡協議会、特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会



▲アートセミナー&座談会 4 もしも「アートって何？」って言われたら、そして思ったら



▲ YouTube番組「ひゆるりんば」

その他

表現を楽しもうプロジェクト
「アーティストに会いにいってみた」
 取材・撮影：2024年2月
 配信：3月中旬以降随時
 訪問場所：ほっとスペースぼんぼん、広島市佐伯区、ニューライフ君田、広島市安佐南区
 配信場所：広島県アートサポートセンターチャンネル
 広島県内で表現活動に取り組む人を紹介するYouTube番組。
 実施団体：広島県アートサポートセンター

YouTube番組「ひゆるりんば」
 2023年7月、9月、10月、11月、12月、
 2024年1月、3月配信
 会場：広島県アートサポートセンターYouTubeチャンネル
 広島県内のアート情報の発信と様々な表現(アート)を楽しむことを目的としたYouTube番組。
 実施団体：広島県アートサポートセンター

アート相談窓口
 ①2023.10.31(火)
 会場：広島県立美術館
 ②2023.12.2(土)
 会場：ふくやま美術館
 あいサポートアート展の会場にてアート相談窓口を設置し、アドバイザーが相談対応を行う。
 主催：広島県
 実施団体：広島県アートサポートセンター

その他

第21回 広島アビリンピック
障がいのあるアーティストによる作品展示
 2024.1.6(土)
 会場：ポリテクセンター広島
 広島県内の展覧会で活動している障がいのあるアーティスト12名と特別支援学校(1校)の生徒さんの作品展示。
 主催：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構広島支部、広島県
 後援：広島労働局 広島市
 協賛：ANAクラウンプラザホテル広島、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社広島支店、株式会社アンデルセンサーサービス、グランドプリンスホテル広島、株式会社経済レポート、株式会社だち株式会社ナガ・ツキ株式会社ニシキプリント、ひろぎんビジネスサービス株式会社、株式会社広島情報シフォニー、公益社団法人広島ビルメンテナンス協会、株式会社フレスタ、ホテルグランヴィア広島
 展示協力：認定NPO法人ひゆるぼん、広島県アートサポートセンター

専門家派遣(単発型)
作品展示についての研修会
 2024.3.9(土)
 会場：社会福祉法人 静和会 大日学園
 職員を対象にした、「展示」についての研修会。
 講師：ギャラリーミヤウチ学芸員 今井みはる 氏
 実施団体：広島県アートサポートセンター

鑑賞支援 広島県立美術館紹介動画の制作
 撮影：2023.12.4(月)
 場所：広島県立美術館
 配信：2024年3月下旬を予定
 配信場所：広島県立美術館ホームページ
 美術館へのアクセスを促す紹介動画の制作。
 主催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター
 協力：おきらく劇場ピロシマ
 撮影・編集：株式会社 結movie

鑑賞支援 遠隔ロボットを使った鑑賞サポート
 会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ
 アーティスト対象。アート・ルネッサンス会場にて、遠隔ロボットを使って鑑賞とイベント参加のサポート。
 主催：広島県、広島大学、広島県アートサポートセンター
 協力：広島支援機器研究会

徳島

支援センター名
徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター



▲ 第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展



▲第3回 全国公募「Tシャツデザイン展」



▲私のことば2023展



▲「ひとりひとり、いろいろで、まる。」工房まる作品展

展覧会

笠野智也作品展

2023.4.29(土・祝)～5.28(日)

会場:徳島県立障がい者交流プラザ 1階プラザギャラリー
笠野智也氏が制作した油絵12点の展示と作者紹介ビデオの上映。

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

第3回 全国公募「Tシャツデザイン展」

2023.7.14(金)～8.16(水)

会場:徳島県立障がい者交流プラザギャラリー
710点の応募作品の展示及び優秀賞受賞者とクリエイターが協働したTシャツを商品化し販売する。

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展

2023.9.6(水)～9.10(日)

会場:徳島県立近代美術館ギャラリー
徳島県内の障がい者の制作したアート作品131点の展示すると共に、審査委員による選考を行い優秀な作品を表彰。また、全作品を掲載した作品集を制作・配布。

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展

受賞作品巡回展

2023.9.23(土)～12.18(月)

会場:徳島県立障がい者交流プラザ、阿波銀プラザ
第9回「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品13点の県内2か所での巡回展示。

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

展覧会

私のことば2023展

2023.12.13(水)～12.18(月)

会場:阿波銀プラザ
支援センター開設5周年記念展。県内アーティスト12名35点の作品の展示および作者紹介ビデオの上映。

記念講演:特定非営利活動法人100年福祉会 片山工房 理事長 新川修平氏

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

共催:株式会社 阿波銀行

「ひとりひとり、いろいろで、まる。」

工房まる作品展

2024.2.21(水)～3.3(日)

会場:徳島県立近代美術館ギャラリー
特定非営利活動法人まる「工房まる」(福岡市)で制作された54名の作品約110点の展示および公開制作。

ゲストトーク:主任支援員 池永健介氏

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

協力:特定非営利活動法人まる 工房まる

Spring展

2024.3.20(水)～4.14(日)

会場:徳島県立障がい者交流プラザ 1階プラザギャラリー
県内障がい者13名の制作した作品、31点の販売。

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

ワークショップ

「あつまれ!みんなで楽しもう!!」音楽療法体験

2023.8.1(水)

会場:徳島県立二十一世紀館多目的活動室

音楽療法体験。

講師:フロリダガルフコースト大学名誉教授

マイケル・ローバッカー氏

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

共催:徳島文理大学

協力:徳島文理大学音楽学部

「マスキングテープで表現してみよう」

2023.11.5(日)

会場:ふらっとKOKUFU

指で簡単にちぎって気楽に壁に貼ったり剥がしたりできる、マスキングテープを使っでの表現について学ぶ。

講師:徳島大学准教授 田中 佳氏

主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

共催:徳島大学人と地域共創センター

協力:徳島大学ホスピタルアートクラブ

▼「あつまれ!みんなで楽しもう!!」音楽療法体験



イベント

「知的財産権の基礎を学ぼう」
 2023.10.4(水)
 会場:徳島県立二十一世紀館 イベントホール
 知的財産権に関する法的トラブルに巻き込まれないようにするために、知的財産権の基礎知識を学ぶ。
 講師:弁護士 戸田順也 氏
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
 共催:INPIT徳島県知財総合支援窓口

「NFTって何？」
 2023.12.7(木)
 会場:徳島県立障がい者交流プラザ
 NFTの仕組みと、今後の活用の可能性について学ぶ。
 講師:四国大学准教授 上野昇 氏
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

第2回「みんなのはっぴょうかい」
 2024.2.22(木)
 会場:徳島県立二十一世紀館 イベントホール
 15組、148名のダンス・楽器演奏・朗読などの舞台発表とYouTubeによるライブ配信。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
 協力:徳島文理大学音楽学部

その他

企画委員会の開催
 2023.9.22(金)、2024.3.11(月)
 会場:徳島県立障がい者交流プラザ
 支援センターの事業について企画委員に報告および意見交換。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」・「佐川美術館」見学
 2023.10.18(水)
 会場:ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、佐川美術館
 見学及びNO-MAスタッフによる展示解説。さわって楽しむ鑑賞に親しむ。また、佐川美術館の作品鑑賞。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

訪問調査
 通年
 会場:県内各地
 施設・特別支援学校・個人を訪問し、芸術活動の現状等について調査。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

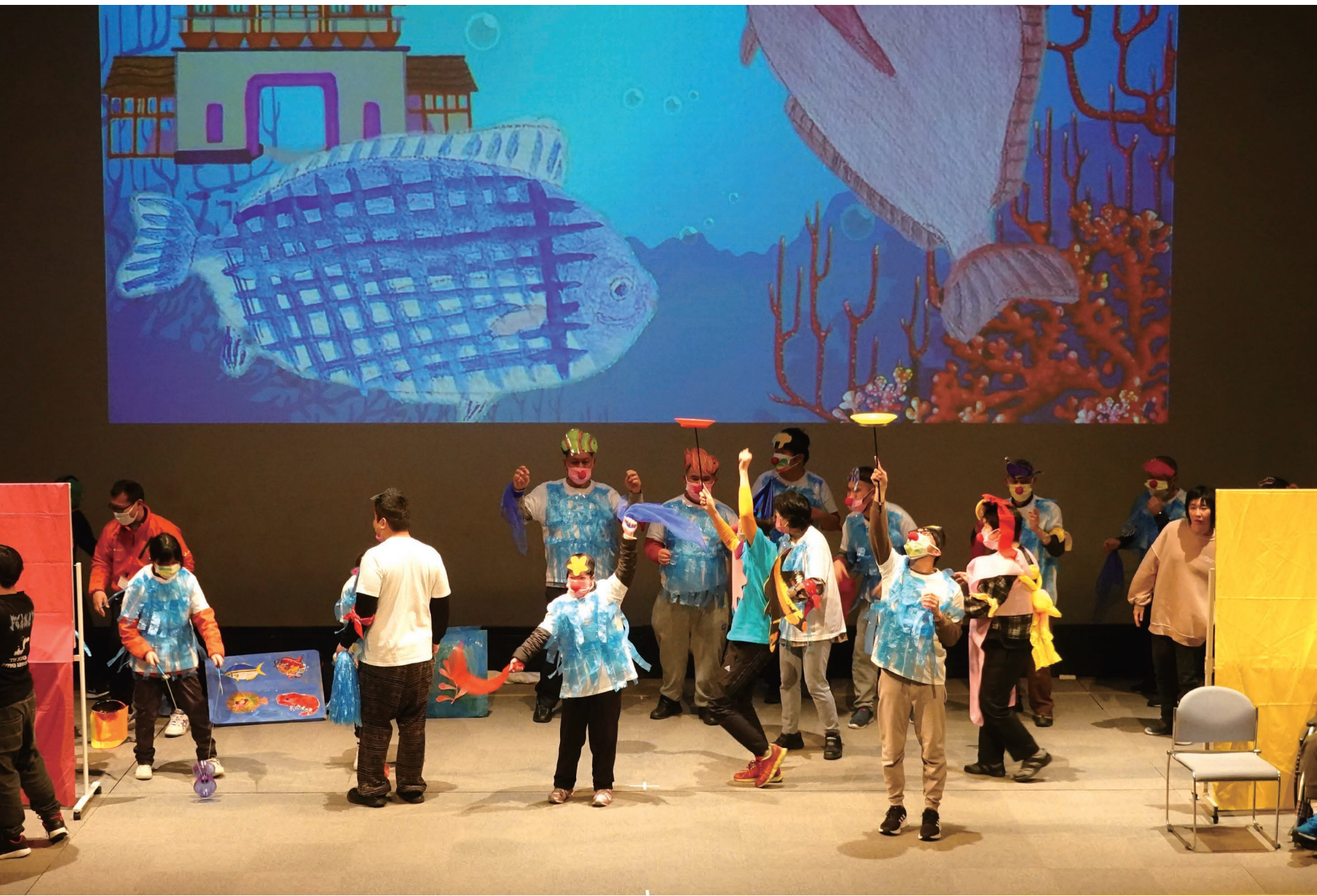
作品販売
 通年
 会場:徳島県立障がい者交流プラザ ブラザショップ
 ブラザショップにおいて、1作家1ヶ月間アート作品を展示し販売の機会とする。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

ホームページ・SNSによる情報発信
 通年
 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターホームページ・Instagram
 主催の行事や募集内容について、また県内外のイベント情報の発信。

その他

相談記録簿の作成
 通年
 会場:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
 創作活動についてや、発表などに関する相談を随時受付と情報提供。

プラザギャラリー貸出業務
 通年
 会場:徳島県立障がい者交流プラザ ブラザギャラリー
 ブラザギャラリーの貸出調整および、展示アドバイス。
 主催:徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター



▲ 第2回「みんなのはっぴょうかい」



▲まちかどアート展

香川

支援センター名／香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES

展覧会

- 香川県障害者芸術祭2022
～キラリ☆と光る芸術祭～ 巡回展**
- ①2023.6.1(木)～6.30(金)
会場:坂出市役所
 - ②2023.7.18(火)～7.31(月)
会場:観音寺市役所
 - ③2023.8.1(火)～8.13(日)
会場:かがわ総合リハビリテーション福祉センター
 - ④2023.8.15(火)～8.25(金)
会場:香川県庁
 - ⑤2023.11.6(月)～11.24(金)
会場:三木町役場
 - ⑥2023.11.27(月)～12.22(金)
会場:さぬき市役所寒川庁舎
 - ⑦2024.1.16(火)～2.4(日)
会場:香川県立図書館
- 香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を展示。(平面作品・大型共同作品・さりを織り反物・立体作品の展示)

- まちかどアート展**
2023.7.13(木)～約1年間
会場:高松常磐町商店街
建築現場の仮囲いを利用し、香川県障害者芸術祭2022作品展で展示した作品の一部を養生シートにプリントして展示。

- たかまつ元気DAY!展示**
2023.11.23(木・祝)
会場:高松中央商店街(田町)
高松中央商店街内ギャラリーにて作品を展示。
主催:協同組合日専連高松
作品提供:ほのぼのワークハウス

コンサート

- 音楽鑑賞会(バイオリン・ピアノ)**
2023.10.5(木)
会場:野の花
バイオリニスト青柳氏とピアニスト梅田氏を迎え、バイオリンとピアノによるデュエット演奏会を開催。

- ブルース・ヒューバナー尺八コンサート**
2023.10.25(水)
会場:朝日園・のぞみ園
ブルース・ヒューバナー氏による日本の伝統楽器の「尺八」の音楽や音色を楽しむ鑑賞会を開催。



▲香川県障害者芸術祭2022
～キラリ☆と光る芸術祭～ 巡回展



▲音楽鑑賞会



▲ブルース・ヒューバナー尺八コンサート

ワークショップ

リズムワークショップ
2023.7.18(火)
会場:リール
元ザ・ブルーハーツのドラマー梶原氏を講師に迎え、ガムテープ太鼓を使用したリズムワークショップを実施。

アートワークショップ@白鳥園
2023.10.20(金)
会場:白鳥園
芸術家の千田氏を講師に迎え、「地域と白鳥園の集い」で使用するステージ用バックアートを共同制作。

アートワークショップ@ぶちふらわあ
2023.11.29(水)
会場:ぶちふらわあ
芸術家の横田氏を講師に迎え、新聞紙を利用したアートワークショップを実施。



▲リズムワークショップ

▼イラスト入りエコバッグの制作・販売

イラストエコバック

Hideaki.D
普通寺希望の家

楽しく踊っている絵を描きました。色々な帽子をかぶった可愛い妖精です。今回エコバッグのイラストに選ばれてとても驚きました。でも嬉しかったです。実際にかばんになったのを見たら、すごく良いなと思いました。ぜひ、多くの人に自分の絵を手にとってもらえればと思います。

小倉 優香
のぞみ園

下書きは無く、直接マジックで描くスタイルに迷いは無く、独特の世界観がある。動物、果物、花等、生活の中で様々な物や場面に触れ、経験したことを絵に表現している。記憶をたどり個性的な色使いと表現力で描くのが得意であり、同じ物でも描くたびにイメージの違った作品になるのも彼女の魅力である。

えがおのまっちゃん
いいのやま福祉会
多機能型事業所 野の花

「えがおのまっちゃん」は、文字を書いたり絵を描いたりするのが大好きです。コロナ禍の影響もあり、野の花では、毎月1回の土曜開所日に、事業所外への外出に替え、事業所内で絵画教室、硬筆や書道、木工教室、団扇づくり体験、パンやデコレーションケーキ作りなど多種多様なことに取り組んできました。「えがおのまっちゃん」は、特に絵を描くのが大好きで、3原色の絵具を使って、個性的な作品をたくさん描いています。

つくるを**楽しむ**

障がいを持った方々も、一緒に作る事ができる商品や個性豊かな才能を輝かせる商品を**「楽しんでつくる」**をモットーに商品開発しています。商品が売れることにより、工賃アップはもちろん、つくる楽しみに関わり、働きがいや社会とのつながりを実感できる場を作り出していきます。

オリジナルエコバックシリーズができました!

▼アートワークショップ



その他

情報発信
2023.4.1(土)～2024.3.31(日)
県内外のイベント情報等をホームページを通じて発信。

相談事業
2023.4.1(土)～2024.3.31(日)
文化芸術活動に関する相談を随時受付。

運営委員会の開催
①2023.4.18(火) 会場:香川県庁
②2023.9.14(木) 会場:かがわ総合リハビリテーション福祉センター
③2024.3.21(木) 会場:香川県社会福祉総合センター 支援センターの活動状況の報告等。

展示会視察
2023.4.20(木)
会場:ふれあいの家
ふれあいの家作品展「ART☆ART2023」を視察。

活動視察
①2023.5.19(金) 会場:明日葉
②2023.6.8(木) 会場:恵生/園
芸術家講師による造形教室の様子を視察。

その他

アートボランティア養成講座
2023.8.6(土)
会場:かがわ総合リハビリテーション福祉センター
障害者の文化芸術活動に関する講座の実施。

展示作業参加
2023.9.13(水)
会場:坂出市立美術館
第12回ふしぎなたね展2023の展示作業に参加。

香川みんなのアートギャラリー
2023.12.1(金)～公開中
KAGAWAMOVES
ホームページ内特設ページ
KAGAWAMOVESホームページ内に、常設展示型のギャラリーを設置。
<https://www.kagawamoves.com/outsideart/>



イラスト入りエコバッグの制作・販売
会場:香川県社会就労センター協議会
香川県障害者芸術祭 2022 に出展された作品の中から3作品を選びエコバッグを制作・販売(※センターは企画・販売に協力)。
企画・販売:香川県社会就労センター協議会

情報発信
2023.4.1(土)～2024.3.31(日)
県内外のイベント情報等をホームページを通じて発信。

愛媛

支援センター名／
愛媛県障がい者アートサポートセンター

展覧会

令和5年度 障がい者芸術文化祭
～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～
2023.11.30(木)～12.10(日)

会場:愛媛県美術館
[入賞作品巡回展]

①2023.12.16(土)～12.24(日)

会場:IYO夢みらい館(伊予市)

②2024.1.13(土)～1.21(日)

会場:あかがねミュージアム(新居浜市)

③2024.1.24日(水)～2.1(木)

会場:テクSPORT今治(今治市)

④2024.2.5(月)～2.9(金)

会場:宇和島市役所(宇和島市)

⑤2024.2.14(水)～2.21(水)

会場:西予市役所(西予市)

⑥2024.2.24(土)～3.7(木)

会場:愛媛県身体障がい者福祉センター(松山市)

【募集内容】平面作品:絵画(油彩、水彩、アクリル、貼り絵、版画、デザインなど)、書(毛筆)

立体作品:陶芸、その他(彫刻、工芸、手芸)など



▲令和5年度 障がい者芸術文化祭
～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～

イベント

令和5年度 障がい者芸術文化祭
～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～
オーディション:2023.7.15(土)

ワークショップ:2023.7.22(土)～12.16(土)の間に29回

会場:愛媛県身体障がい者福祉センター

成果発表会リハーサル:2023.12.23(土)

成果発表会 Christmas Gift～聖者の行進～:

2023.12.24(日)午前・午後2回公演

会場:IYO夢みらい館

障がいの有無にかかわらず、県内在住の舞台芸術に関心のある方々が参加。

主催:愛媛県

運営:愛媛県障がい者アートサポートセンター

委託事業者:有限会社中村ファミリーセンター



◀令和5年度 障がい者芸術文化祭 ～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～ 成果発表会▶

イベント

**令和5年度 商品化支援事業
障がい者アートデザインコンペ**
 参加者選考:2023.6.17(土)
 参加者説明会:2023.6.27(火)
 ワークショップ:2023.7.11(火)
 プレゼンテーション:2023.8.22(火)
 表彰式及び商品化事業成果報告会:2024.1.31(水)
 会場:愛媛県身体障がい者福祉センター他
 ・障がいのある方とデザイナーがチームを組み、企業の課題に対しワークショップでアイデアを創出。
 ・各企業に採用されたデザインは、各企業により製造・販売されている。
 【協賛企業】らくれん牛乳部門:四国乳業株式会社、今治タオル部門:大磯タオル株式会社、松山鍋焼きょうどん部門:愛麺株式会社



▲令和5年度 商品化支援事業 障がい者アートデザインコンペ



▲令和5年度 芸術文化活動を支援する人材の育成



▲令和5年度 障がい者芸術文化活動外部指導者派遣事業

その他

**令和5年度
芸術文化活動を支援する人材の育成**
 2023.9.11(月)
 会場:愛媛県身体障がい者福祉センター
 アートにまつわる権利のきほんStep2
 講師:三浦 友美氏

**令和5年度
芸術文化活動を支援する人材の育成**
 第1回:2023.9.9(土)
 第2回:2023.10.14(土)
 第3回:2023.10.21(土)
 会場:愛媛県身体障がい者福祉センター
 表現力向上ワークショップ
 講師:中村 和憲氏、近藤 誠二氏、新名 真裕美氏

**令和5年度 障がい者芸術文化活動
外部指導者派遣事業**
 2023.8~2024.2
 会場:各事業所
 舞台分野:6事業所、美術分野:4事業所

高知

支援センター名／薬工ミュージアム分室



▲身体表現と舞台芸術の可能性を探るワークショップと作品づくり「身体に向き合うワークショップからつくるパフォーマンス」公演

展覧会

展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」

2023.7.15(土)～11.5(日)

会場:薬工ミュージアム

昭和20年～40年代の小学生や中学生などが描いた絵画作品と、公募による現代の小学生が描いた絵画作品を紹介する展覧会。

主催:薬工ミュージアム・NPO 蛸蔵

「第3回薬工アンパン アートバザール」

2023.11.17(金)～12.3(日)

会場:薬工ミュージアム

「アートだ!」と思う作品なら、誰でも販売することができるアートバザール。昨年度行った交流会や振り返り会での声を受け、今回から「アーティスト応援BOX」を受付前に設置した。

主催:薬工ミュージアム

共催:アートセンター画楽

わらこ Sou Sou 室 プレワークショップ 作品展

2024.3.15(金)～17日(日)、3.22(金)～24日(日)、3.29(金)～31日(日)

会場:薬工ミュージアム エントランス

「わらこ Sou Sou 室」開設に先立ち行ったプレワークショップの参加者が創作した作品を紹介する展覧会。10名による21点の作品を展示した。

主催:薬工ミュージアム・NPO 蛸蔵



▲わらこ Sou Sou 室 プレワークショップ 作品展

イベント

「第3回薬工アンパン アートバザール」

投げ銭パフォーマンスステージ

2023.12.3(日)

会場:蛸蔵

「アートだ!」と思うパフォーマンスであれば、ジャンルを問わず誰でも参加できる事前申込制のステージイベント。名称を「投げ銭ライブ」から「投げ銭パフォーマンスステージ」に変更したことで、音楽以外の表現者も参加した。

主催:薬工ミュージアム

共催:アートセンター画楽

公演

身体表現と舞台芸術の可能性を探る

ワークショップと作品づくり

「身体に向き合うワークショップからつくる

パフォーマンス」公演

2024.3.17(日)

会場:ダンススクリーム

参加者が自分の身体と感覚に向き合い、様々な要素によって変化する身体を感じるためのワークから創作した作品のパフォーマンス公演。出演者(ワークショップ参加者)の特技や個性をパフォーマンスに取り入れ、これまでに経験したことがない公演だったという声を来場者からも出演者からも多く頂いた。

主催:薬工ミュージアム・NPO 蛸蔵

いろいろ楽しむ演劇プロジェクト

手話表現でゲーム!!

2024.3.23(土)、24日(日)、30日(土)

会場:オーテピア 4階 集会室

立場や年齢、性別、障害の有無や国籍、その他いろいろな属性などには関係なく、一人一人が対等な関係で一つの空間と物語を共有しながら作品を創りあげていく演劇公演に向けたプロジェクトの一環。演劇の手法を用いたゲームの中に手話表現を取り入れ、手話と表現に親しんだ。

主催:薬工ミュージアム・NPO 蛸蔵



▲展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」関連イベント「美術館×遊び場」[ワークショップ2] 宇宙ステーションを作ろう!



◀上:展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」関連企画 TJ☆WS「美術館×遊び場」ワークショップを体験してつくってみよう〜/中:展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」関連イベント「美術館×遊び場」[ワークショップ1]絵の世界でソロキャン/下:わらこSou Sou 室(仮)プレワークショップ 薬工ミュージアムにあるいろいろな材料を使って創作してみよう!

その他

相談事業
通年
 会場:薬工ミュージアム他適宜
 電話、メール、FAX、SNS等のメッセージ、来館等さまざまな方法で相談を受け付け、相談内容に応じた対応を適宜行った。

作家・作品調査
通年
 会場:個人宅、福祉施設、文化施設等
 作家・作品の調査。主に、県内在住もしくは出身の方や県内を拠点に活動する施設等を訪問して行った。

情報収集
通年
 会場:個人宅、福祉施設、文化施設等
 障がいのある方の文化芸術活動に関する情報収集。主に県内で情報収集を行った。

「第7回高知市民ミュージカル体験ワークショップ」への協力
2023.4.22(土)、4.23(日)
 会場:高知市文化プラザかるぼーと 11階 大講義室
 年齢や社会的立場、障害や舞台経験の有無に関係なく、誰もが参加できる市民参加型ミュージカル上演の出演者募集のための体験ワークショップへの協力。障がいのある方が参加できるよう、センター職員が赴き、必要なサポートや現場スタッフ等へのアドバイスなどを行った。

『第7回高知市民ミュージカル「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」オーディションワークショップ』への協力
2023.5.6(土)、5.7(日)
 会場:高知市文化プラザかるぼーと 11階 大講義室
 年齢や社会的立場、障害や舞台経験の有無に関係なく、誰もが参加できる市民参加型ミュージカル上演のための出演者公募を行うオーディションワークショップへの協力。障がいのある方が参加できるよう、センター職員が赴き、必要なサポートや現場スタッフ等へのアドバイスなどを行った。

その他

『高知市文化プラザかるぼーとリニューアルオープン記念事業 第7回高知市民ミュージカル「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」地域交流プログラム「プチミュージカル体験」』への協力
2023.10.22(日)
 会場:Uプロジェクト 2階 体育館
 放課後等デイサービス等を行う福祉施設を訪問し、公演で使用する楽曲の歌とダンスを体験してもらったワークショップ開催に協力。ワークショップ内容の提案や公演出演者への声掛け、施設との連絡調整、当日運営、訪問した福祉施設への公演本番鑑賞への来場案内と来場時のサポートなどを行った。

『高知市文化プラザかるぼーとリニューアルオープン記念事業 第7回高知市民ミュージカル「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」』への協力と鑑賞支援サービス実施
[稽古期間]2023.5～
[本番]2023.12.16(土)、12.17(日)
 会場:[稽古]高知市文化プラザかるぼーと 11階大講義室他、[本番]高知市文化プラザかるぼーと 大ホール
 年齢や社会的立場、障害や舞台経験の有無に関係なく、誰もが参加できる市民参加型ミュージカル上演への協力。障がいのある方が安心して舞台上立つことができるよう稽古のサポートを行った他、彼らをサポートする人材として公演サポーターの育成にあたった。また上演時には、聴覚に障がいがある方が演劇作品を鑑賞するための鑑賞支援サービスを実施。タブレット端末貸出による字幕提供を行った。
 主催:高知市、公益財団法人高知市文化振興事業団、公益社団法人全国公立文化施設協会

こうちミュージアムネットワーク情報交換会発表「文化施設における障害者への合理的配慮について」
2023.5.23(水)
 会場:高知市文化プラザかるぼーと 11階 大講義室
 こうちミュージアムネットワーク総会後の情報交換会にて、当該団体加盟館職員向けに障害者への合理的配慮(特にソフト面)について学ぶ研修を行った。

ワークショップ

展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」関連企画 TJ☆WS「美術館×遊び場」ワークショップを体験してつくってみよう〜
2023.6.20(火)～22日(木)
 会場:薬工ミュージアム 展示室内
 講師によるワークショップを体験し、「美術館で遊ぼう」をテーマに子どもたちが楽しめるプログラムを参加者で考えるワークショップ。参加者で考えたプログラムは展覧会の関連イベントとして9月に実践。6月と9月のワークショップを通じ、アートのジャンルを超え、ワークショップを行える人材の育成を図った。
 主催:薬工ミュージアム・NPO蛸蔵

展覧会「こどもの絵 ー今と昔ー」関連イベント「美術館×遊び場」ワークショップ [ワークショップ1]絵の世界でソロキャン [ワークショップ2]宇宙ステーションを作ろう!
2023.9.2(土)、9.3(日)
 会場:薬工ミュージアム 展示室内
 6月に開催したワークショップ参加者考案による「美術館で遊ぼう」をテーマにした、子どもたちが楽しめるワークショッププログラム。参加者は、作品が展示されている空間の中でソロキャンをしたり宇宙ステーションを作ったりして楽しんだ。
 主催:薬工ミュージアム・NPO蛸蔵

ワークショップ

身体表現と舞台芸術の可能性を探るワークショップと作品づくり 「身体に向き合うワークショップからつくるパフォーマンス」ワークショップ
2024.1.21(日)、1.28(日)、2.4(日)、2.18(日)、2.25(日)、3.10(日)、3.16(土)
 会場:ダンススクリーム
 参加者が自分の身体と感覚に向き合い、様々な要素によって変化する身体を感じるためのワークから作品を創作していくためのワークショップ。ワークショップを通じて、身体の変化に感覚を研ぎ澄まして自覚的になる体験をするとともに、振付を覚えるという手法ではない身体表現のパフォーマンスづくりを行った。
 主催:薬工ミュージアム・NPO蛸蔵

わらこSou Sou 室(仮)プレワークショップ 薬工ミュージアムにあるいろいろな材料を使って創作してみよう!
2024.2.10(土)、11日(日)
 会場:わらこSou Sou 室(薬工ミュージアム内)
 誰でも「想像」と「創作」を楽しむことができる登録制スペース「わらこSou Sou 室」の体験も兼ねたワークショップ。具象的な表現にとらわれない美術の創作体験を楽しんでもらった。
 主催:薬工ミュージアム・NPO蛸蔵

▼身体表現と舞台芸術の可能性を探るワークショップと作品づくり「身体に向き合うワークショップからつくるパフォーマンス」



その他

高知市文化プラザかるぼーと職員向け研修会「障がいのある方が来やすい文化施設について考えてみる」
2023.6.26(月)
会場:高知市文化プラザかるぼーと11階 大講義室
高知市文化プラザかるぼーとの運営に関わる全職員に向け、合理的配慮等について学ぶ研修会を行った。

『障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」 Dance Camp(ダンス・キャンプ)』への協力
2023.8.26(土)・8.27(日)
※高知県在住振付家と高知県出身ダンサーに関する部分は8.26のみ
会場:国際障害者交流センタービッグ・アイ 多目的ホール
障害のある人との創作活動を行う国内外の振付家や、障害のあるアーティストとともに作り上げる、障害や国籍を超えたダンスワークショップに協力。主に、主催者と高知県在住の振付家、高知県出身ダンサーとの連絡調整業務、広報協力などを行った。
主催:国際障害者交流センタービッグ・アイ、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

「第3回薬工アンパンアートバザール」会場下見・相談会
2023.10.20(金)～10.23(月)
会場:薬工ミュージアム
アートバザールの会場下見ができる、作品の展示方法や展示・販売に必要な準備物、作品の販売価格の設定等展示と販売に関する悩みや困りごとの相談会。
主催:薬工ミュージアム
共催:アートセンター画案

その他

「第3回薬工アンパンアートバザール」交流会
2023.11.25(土)
会場:蛸蔵
アートバザール出展者、来場者(来場予定含む)、関係者による交流会。
主催:薬工ミュージアム
共催:アートセンター画案

「第3回薬工アンパンアートバザール」振り返り会
2023.12.4(月)
会場:薬工ミュージアム前 中庭
アートバザールに出展した感想等を聞く会。
主催:薬工ミュージアム
共催:アートセンター画案

『障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」 Dance Caravan(ダンス・キャラバン) in 高知』への協力
2023.11.11(土)
会場:高知市文化プラザかるぼーと2階 小ホール
障害や国籍を超えたダンスワークショップに協力。会場や通訳者手配、主催者と高知県在住振付家との連絡調整業務、広報協力、当日運営手伝いなどを行った。
主催:国際障害者交流センタービッグ・アイ、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

アーティスト派遣
2024.1.11(木)
会場:高知県立中村特別支援学校
学内外で発表する演劇公演の演技指導者として、アーティストを派遣。演技指導だけでなく、稽古を行う際の環境整備や公演時の音響オペレーション・使用機材等に関するアドバイスも行った。

その他

『知的・発達障害児(者)にむけての劇場体験プログラム 劇場って楽しい!! 2024 in 高知 映画体験「若おかみは小学生!」への協力
[事前研修会]2024.1.17(水)
会場:高知県立県民文化ホール 第6多目的室
[映画上映会]2024.2.10(土)
会場:高知県立県民文化ホール グリーンホール
音の大きさや響き、照明による明暗、鑑賞者としてのルールを鑑賞しながら学び、「劇場」という場所を体験する体験型プログラムへの協力。事前研修の講師や当日運営人員の手配、広報協力、当日運営の手伝いなどを行った。
主催:高知県立県民文化ホール(高知県立県民文化ホール共同企業体)

「権藤説子presents 誰もが楽しめる バリアフリー演劇鑑賞会 in 高知 東京演劇集団 風ーバリアフリー演劇ー星の王子さま」への協力
2024.1.20(土)
会場:土佐市複合文化施設つな一で
舞台上での手話通訳や字幕、音声ガイドなど、多種の鑑賞サポートを取り入れたバリアフリー演劇公演の開催への協力。広報協力や当日運営手伝いなどを行った。
主催:誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会in高知実行委員会
共催:特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク、一般社団法人東京演劇集団風研究所

わらこ Sou Sou 室
2024.3～
会場:わらこ Sou Sou 室(薬工ミュージアム内)
誰でも「想像」と「創作」を楽しむことができる登録制スペースを開設した。
主催:薬工ミュージアム・NPO蛸蔵

『ワークショップ 目の前にいる「気になる存在」を魅力的なパートナーにする秘訣(障がいのある人たちへのブランディングを可能にする演劇)』への協力
2024.2.16(土)
会場:高松市瓦町アートステーション 市民交流プラザ IKODE瓦町(瓦町FLAG 8F)多目的スタジオ
障害のある人たちの魅力の伝え方を学習するワークショップの企画立案と実施への協力。高知県内の人材育成としてUDトークを使用した字幕投影のための技術スタッフを高知から派遣し、手話通訳者の手配、広報やネットワーク構築への協力、当日運営の手伝いなどを行った。
主催:高松市、高松ワークショップLab.
共催:中国・四国 Artbrut Support Center passerelle(パスレル)



▲『高知市文化プラザかるぼーとリニューアルオープン記念事業 第7回高知市民ミュージカル「Gift of Life ～にぎやかな植物園～」稽古の様子

その他

高松ワークショップLab.×岡山芸術創造劇ハレノワ「トークセッション バリアフリーな場ってなんだろう? ～ワークショップ参加のアクセシビリティについて考える～」への協力
2024.2.17(日)
会場:岡山創造劇場ハレノワ 4階 アートサロン
アートや福祉の現場に携わる方々から現状や課題について知り、障壁のない社会づくりを考えるトークセッションの企画立案と実施への協力。高知県内の人材育成としてUDトークを使用した字幕投影のための技術スタッフを高知から派遣し、手話通訳者の手配、広報やネットワーク構築への協力、会場や登壇者との連絡調整業務、当日運営の手伝いなどを行った。
主催:高松市、高松ワークショップLab.、公益財団法人岡山文化芸術創造
共催:中国・四国 Artbrut Support Center passerelle(パスレル)、岡山市

夜須公民館主催事業 市民参加演劇公演「ノマドとマージナルマン」鑑賞支援サービス
2024.2.24(土)
会場:香南市夜須公民館マリンホール
聴覚に障がいがある方が演劇作品を鑑賞するための鑑賞支援サービスを実施。タブレット端末貸出による字幕提供を行った。
主催:香南市夜須公民館



新しい物事に取り組むときには、心理的な障壁、社会的障壁、経済的な障壁など、様々なタイプの障壁によって二の足を踏むことが多くあると思います。本企画は、アート活動に新たに取り組む上での障壁をパスレルが伴走することで可能な範囲で取り除き、芸術文化活動に取り組む人や組織の裾野を広げ、そして、企画終了後もその活動を継続していくことができるようになることを目指して、令和4年度よりパスレルの主催事業として取り組みを開始した企画です。

ロシアの心理学者レフ・ヴィゴツキーは、子どもの発達・学習に関する理論として、『発達・学習の最近接領域』という理論を提唱しています。これは、「問題解決において、援助なしで子どもが達成できることと、大人の援助があれば達成できることとの差」と定義されており、「少しの手伝いがあったら、または誰かと一緒なら出来る領域」を意味しています。ヴィゴツキーの理論において子どもは、現状の発達段階では難しい様々な運動・認知課題に対して、「少しの手伝い」あるいは「誰かと一緒に」できることを経験することで、スムーズに未獲得の能力を獲得していくと考えられており、現在、この理論は、保育・教育・リハビリテーションなど様々な領域に応用されています。

本企画は、いわゆる従来型のアーティスト派遣事業とは異なり、アーティストの選定から企画の実施まで、実施事業所が主体となって進めていきます。企画を進めていくに当たり現れる様々な障壁に対して、パスレルが「少しの手伝い」を行い、また状況に応じて、「パスレルと一緒に」に取り組む、すなわち、発達・学習の最近接領域を意識しながらパスレルが関わっていくことによって、アート活動の体験が一度きりで終わるのではなく、翌年度以降も活動を継続できるようになる、という仮説のもと実施しています。実際に、令和4年度に本企画でファーストステップを踏んだ事業所において、形は様々であれ自立してアート活動を継続することができている、との報告もいただいております。

さて、3月7日に、今年度ご参加いただいた事業所の皆さんを一同に会してオンライン座談会を行い、応募の動機、アーティストの選考から連絡、事前準備から企画の実行、その後の変化などについてご報告をいただきました。それぞれの事業所がどのようにしてファーストステップを踏み出したのか、また、どのような障壁が立ち上がりそれを乗り越えてきたのか、座談会の様子も含めて当報告書へ掲載しておりますので、アート活動を始めようとしている事業所の皆様にはぜひ参考にさせていただけると幸いです。

最後になりますが、今年度本企画へ応募いただいた皆様、また採択の後に短い期間で濃密かつ豊かな企画を実行いただいた参加事業所の皆様、アーティストの皆様、ありがとうございました。また、応募の呼びかけと選考にご協力いただいた中国・四国ブロックの各支援センターの皆様、ならび各県ご担当の皆様に感謝いたします。参加してくださった皆様からの笑顔を糧に、これからもファーストステップの輪をどんどん広げていきましょう。

『できるまでできないの間で』平谷尚大

芸術文化活動支援コーディネーター



主催事業

「アート活動をはじめようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」

企画概要

支援センターを対象に実施したアンケートにおいて、「中国・四国ブロック内で連携を取るとしたら、一体どのような部分での連携を望みますか?」との質問に対して、全ての支援センターが「福祉・芸術分野の人脈づくり」と回答しました。その結果を受けて、広域センター・パスレルとして協議を重ねた結果、支援センター、福祉分野、芸術分野における新たなネットワークづくりを主目的として本企画は誕生しました。

本企画は、障害のある方およびその方々に関わる事業所とアーティストとのコラボレーションによる創作活動の『体験』にスポットを当て、これまでアート活動に関わったことのない事業所や障害のある方にアート活動を体験する機会を持っていただくことを目的としたプロジェクトです。

また、派遣するアーティストの人選、体験する内容を含め、当センターと連携しながら探索するプロセスを経験していただくことで、事業所や障害のある方が事業終了後も継続してアート活動を行っていくことができるようになることを目指しています。

実施対象

以下に挙げるいずれかに該当する団体等とする。
就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型、B 型事業所、
共同生活援助事業所、放課後等デイサービス、
福祉型障害児入所施設、医療型障害者入所施設

活動内容

○手順書に沿って当センターと連携しながら、アーティストとどのような活動を体験するか（美術分野・舞台芸術分野、他）、派遣依頼するアーティストの選定、訪問支援日および体験内容の計画を行う。
○計画を元に、アーティスト派遣による活動の体験（1回）を実施する。体験終了後、必要書類を提出する。

活動場所

原則として、普段活動の拠点としている場所での活動とする。

募集団体数

各県1団体



参加者の様子

プログラミング活動を学校でやっている子もいれば、初めて体験する子もあり、興味の持ち方も様々でした。当日は様子見していた子がその数日後、近しい職員にやってみたく自分から意思表示をしている姿がありました。学校でやっていると言っていた子も、できることがたくさんあるわけではなく、また、その時の気分に左右される部分も大きく、タイミングというものがあるんだと改めて感じました。子どもの姿がきっかけになって、職員の中にも興味を持って一緒に楽しんでいる姿が見られたことは新鮮に感じました。



感想

今回の取り組みを通して、文化芸術活動に向かう敷居が低くなったように感じました。やってみた結果が、利用者を含む多くの方々にどのように作用するかを予め想定することはほぼ無理だということがわかったので、恐れずにまた取り組んでいきたいと思います。講師から「自分の『好き』が、他人に価値を与えるきっかけになることがある」と聞き、本当にすてきだなと思いました。

きっかけをくださった皆様大変感謝しています。ありがとうございました。



今後の展望

子ども達の興味に応じて、プログラミング言語を使う活動を先に進めるようにしていきたいです。まだまだ奥が深いので、一緒に学んでいけたらいいと思います。プログラミングに限らず、「好き」を見つけて自分のペースで取り組んでいける環境を少しずつでも作っていきたいです。



島根 えすぱす

島根県松江市／放課後等デイサービス

事業所の紹介

島根県松江市の放課後等デイサービス事業所です。小学生から中学生まで、1日10人ぐらいの子が通っています。

応募の動機

子ども達の障がいの種類や程度は様々で、興味や好きの方向性もバラバラだが、好きを強みに変えていきかけをつかむことができればと思い、応募しました。

招聘作家と実施内容

〈招聘作家〉高尾宏治さん(プログラミング言語であるスモウルビーを用いた活動を主催)

最初に、パソコン本体(基盤)とキーボード、モニター、マウスの紹介とそれぞれの役割の説明をしてもらいました。そして、それらのパーツを繋ぐことから始めて手順に沿ってプログラムを書き、モニター上に自分のイメージした物を自由に表現して、動かしてみる体験をしました。

実施しての感想

選考に通って職員間でどのようなことをやってみたく話したときには、様々な意見が泡のように出ては消えを繰り返しました。そもそも、これだけできること(できるであろうこと)や興味の方向が違う子どもたちが、一つのテーマを持って物事に取り組んでみるということが可能なのか、それは普段の生活の中で提供している活動とどのように違うのだろうか、ましてそれが「文化芸術活動」であるということに、みんなが尻込みしているのではないかと感じました。パスレルの皆さんの来所をきっかけに、こんなことが出来るのではないかと意見が活発に出るようになりました。スケジュールが押し迫ってくる中で紆余曲折の末、活動が決まり、慌ただしく当日を迎えました。子ども達や職員、その家族も含めて、やってみたことの体感のようなものが今も残っていると感じることもあり、実施して良かったと思っています。

事業所の紹介

私たちは広島県広島市にある小さな生活介護の事業所です。現在は16名のメンバーさんが利用されています。元々就労支援B型だったのですが、メンバーさんの重度化等もあり6年前に生活介護事業所に変更しました。ですが、クッキー等のお菓子を製造販売したり内職をしたりとメンバーさんに工賃が提供もでき、B型の色を濃く残しています。障害があっても働いてお金を稼ぎたい。この地域で暮らしていきたい。そんなメンバーさんの夢や希望をかなえていける場所を目指して活動しています。

応募の動機

広島のアートサポートセンターからの案内状でした。私たちの普段の活動で行っているアート活動は、季節の創作物や絵具を使って自由に描いたり等、職員主導でやる事ばかりで、なかなかメンバーさんからやりたい！という気持ちを引き出すことはできておらず、みんな楽しいのだろうか、やらされているだけなのではないか、これを続けてメンバーさんの好きなことを増やす手助けになるのかな？と不安になっていたところで案内をいただき、何かのきっかけになればいいなと思い応募させていただきました。



招聘作家と実施内容

〈招聘作家〉JCDNサポーター 玖島雅子さん (Qoo~)

ダンスワークショップ「バリケードダンス」。地域の集会所をお借りして、長机をバリケードのように積み上げてその周りに事前にメンバーさんと作製した色を染み込ませたトイレトペーパーや毛糸、スズランテープなどを巻いたり投げたりして壁にするなど、カラフルでこの場でしかできないバリケードハウスをみんなで作りました。導入時や要所所でQoo先生に引っ張っていただき、全員で踊ったり、一人一人が即興で踊りました。完成したバリケードハウスには、事前ワークで描いていた将来自分が住みたい家を飾り付け。最後はみんなで思いっきり壊してクールダウンと振り返りをして終了しました。

実施しての感想

ほぼ知識ゼロからのスタートで、周りの助けも期待できない環境だったので、とにかく不安でした。やってみたくて応募したけど、まさかうちみたいな小さな事業所が参加できるはずないだろうとも思っていたので。ですが、パスレルさんと気軽に連絡ができるという安心感から、気持ちも前に向けるようになり、広島県のアートサポートセンターさんの力をお借りしてなんとか方向が固まり、実現することができました。アート=何か形あるものを創作する、と思っていた私たち職員でしたが、今回の事業をきっかけに、いろいろなアートがあって自己表現できるものがあって、何でもできちゃう！ということが体感でき、今後の活動の視野が広がりました。



参加者の様子

ワークショップでは初めはやっぱりメンバーさんドキドキ。ですが、先生や周りが思いっきり楽しむことでなんだか自分も楽しいかも！と先生の作ってくれた雰囲気についていって飲まれていただきました。いつもは怒られるようなこと(投げたりぐしゃぐしゃにしたり)を思いっきりできたことも、各メンバーさんの参加したい欲を引き出したのではないかと感じました。メンバーさん一人一人が自分のダンスの番を待てないくらい、僕も私も主体的に活動してくれたことに驚き、感動でした。いつも体操にはほとんど参加されないメンバーさんや回りが先に動かないと動き出さないメンバーさんが、我先にと立ってセンターに行こうとしたり、壊す時には結構な勢いで引きちぎっていたりと普段と違う姿を見ることができ、その人の興味関心や持っている力をあらたに見つけることができました。

今後の展望

今回は会場の関係で保護者や地域の方に参加していただくことができませんでしたが、今回のようなメンバーさんの姿をぜひ見たいです。地域の皆さんや学校等と一緒にできるアート活動も見つけていきたいです。そのために、今回つながれた方のご縁を大事につなぎ続けていくこと、年に1回でもいいので、今回のようなアート活動を計画し、もっと身近に感じていけたらと考えています。

感想

とにかく感謝しかありません！貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！



事業所の紹介

私たちチャイルドハウスひなたぼっこの子供達は、『みんなちがってみんないい』…金子みすゞの詩にあるように、一人ひとり豊かな個性と社会を活性化する力を持っています。ただ、障がいがあることでそれが上手く引き出せなかったり、自分の持つ素晴らしい個性に気づかなかつたりすることが少なくありません。私達は日々触れ合う中で、子ども達の持っている個性や能力を活かし、子ども達が自分自身と社会のために新しい価値を創造し、地域の中で共存していけるような支援を目指します。

そのためには、日々の支援活動に様々な分野の活動プログラムを取り入れて、子ども達に色々な体験や経験をする機会を作る事が必須です。「障がいがあるからできない」ではなく「障がいがあってもできる」「特性を活かせば素晴らしい能力が発揮できる」ことを体験し、自信を持って社会へ自立していくサポートができるよう力を入れています。

応募の動機

- ひなたぼっこの基本理念として、
- ひなたぼっこの活動を通して「できる、できた」の体験を実感すること、「楽しい、もっとやりたい」という気持ちや意欲を育むことを大切にします。
 - 「がんばって!」ではなく、「一緒に考えよう、一緒に一歩踏み出す方法を考えよう!」を基本方針とし、決して無理をせず、お母様、子ども達、スタッフ全員の心が温かくなって、笑顔と笑い声の響く楽しい時間を共有できる場所づくりを目指す。
 - 一人ひとりの特性や個性を見出し、それを活かすことで新しい価値を創造し、地域社会への参加を支援する。
- を掲げているため、常に何かへ挑戦できる機会や子ども達独自の創造力を見いだせる場を探し求めていた時に、この企画にであったことがきっかけです。



招聘作家と実施内容

〈招聘作家〉村川 博司さん、隅野 繁夫さん、三芳隆資さん(自然を生かして子ども達の為に楽しい活動をされている方々)

竹を使ってアート活動をしてみよう!…「竹の特性を活かして、様々な大きさ、長さの竹を使って、ジャングルジムやアスレチック、竹の装飾などの創作活動に挑戦してみよう」という企画を立てて実施しました。日頃から外遊びをする機会が少ない子ども達が、少しでも楽しい時間を共有するために、大人の力を借りて、自分たちの遊び場を手作りで作ることに挑戦しました。

〈実施内容〉

- ①3メートルの孟宗竹や真竹を組み合わせてピラミッド型ジャングルジムを3基作る。
- ②それを繋ぎながら組み合わせてアスレチックが兼用できるように固定する。
- ③3基の中心に竹の華を立てる。
- ④細い竹や薄く切った竹で一人ひとりの思いで創った装飾を飾り、ひなたぼっこの庭に巨大竹アートの完成。

参加者の様子

ひなたぼっこの子ども達は、ひとり一人個性や創造力が豊かで、日頃から創作活動やスポーツ、音楽等の芸術活動が大好きです。子ども達の個々の意見を尊重しようとする、なかなか1つの物に絞れず、内容を定めるまでが大変でした。しかし、いざ決まるとこれまで活動を応援してくださっていた方々が、積極的に準備から当日の作業まで一緒に取り組んでくださったことに感謝の気持ちでいっぱい。当日は、どんなものができるか未知の世界だったので、子ども達が上手に入り込めるかドキドキでしたが、そんな心配もすぐに消え、子ども達の方が積極的に大人と関わりながら、楽しい時間を共有し、あっという間の1日でした。完成した時の子ども達やスタッフ、皆さんの満面の笑顔が見れた時、今回のアート活動の挑戦をやったよかったと実感しました。また、来ていただいた3名の作家さんにもよい繋がりが出来、出会いの輪が広がったことを喜んで帰って行かれました。

参加者の様子

参加者(土曜日利用と希望者)は、「何が始まるのだろうか?」ドキドキ、ワクワクだったようです。日頃からあまり人見知りせず、来所者の方々にすぐ馴染んでしまう子ども達なので、始まると自ら積極的にやってみようという場所に行き、のこぎりや電動工具を体験していました。少しずつ形が見えてくると、嬉しそうにジャングルジムに上ったり、小さい竹を使って装飾品やモビールを創ったりして時間いっぱい楽しんでいました。お迎え時に保護者の方々に嬉しそうに制作活動の様子を報告したり、アスレチックに挑戦する姿を見せたりしていました。見ていた保護者も外で生き生きと楽しむお子さんを見て「ずっと固定されてあればよいのに…」と、笑顔になられていました。また、実施後に設けた2週間の展示期間中、自分達も関わって作ったという思いから、参加できなかった友達にいろいろ説明をしたり、使い方を見せたりする姿は、自信に満ち溢れた様子でした。

今後の展望

子ども達は私たちが考える以上に無限の創造力や冒険心に溢れているので、今後もこんな企画をたくさん取り入れながら、自分達でもできる、自信が持てる活動を実施していきたいと考えています。ひなたぼっこのご利用者は1日の定員が決まっていることと、今回は場所をひなたぼっこの庭で設定したため、たくさん子ども達を参加させることが出来なかったため、いろいろな工夫をしながらより多くの子ども達が参加できるようにしていきたいです。

感想

実施当日にもダンボール戦機を上手に作るお子さんの作品の写真をお見せし、お話を聞いていただきましたが、山口県の障がい児に対する芸術、文化関係のイベントや展示会場等があまりなく、子ども達が素晴らしい作品を作ってもそれを活かしてあげる場が少なく、もどかしさを感じています。また、相談にのっていただけると助かります。今回は、本当に貴重な体験をさせていただき、感謝しています。ありがとうございました。



実施しての感想

「本当に、やって良かった。」の一言に尽きると思います。協力していただいた「わけべのりこフラスタジオ」講師の方や、ずっと前向きでいられるようアドバイスしてくださったバスレールの皆さん、準備に協力してくれた利用者さん・職員、すべての人に感謝です。参加した人や、側で見守ってくれた人の心に残るものがあったと思います。事前打合せを行ったことで、施設の見学(当日会場の下見)や、利用者さんの様子を知っていただき、当日の進行計画も具体的なものとなりました。曲の選択についても、言葉の意味に合わせて振付のあるフラダンスなので、日本語の歌詞をお願いしたことも、全員が親しみを持って取り組めることに繋がったと思います。



参加者の様子

踊りの好きな方はもちろん、重度の方も車いすの方も笑顔で体を動かしていました。曲の波長が合っていたのか、ほとんどの利用者さんが途中退席することもなく、最後まで参加することができました。アフターコロナ初の交流行事となり、利用者さんの期待は大きく、心待ちにしてくれており、終了後、「楽しかった」「次はいつ?」と喜んでくれていました。

衣装・壁面装飾の制作活動は、地道な作業で根気も必要でしたが、当日の仕上がりを見たり、実際に衣装を身につけると、誇らしそうにする人、喜んでいる人など、ハワイ気分を感じて盛り上がってくれていました。

今後の展望

来年度は「わけべのりこフラスタジオ」の方を行事に招待し、全員参加のフラダンス教室を複数回実施するなど、今回結んだご縁を継続していきたいと思います。また、他のアート活動にも、個性あふれる利用者さんの魅力が発信できるように、個人・グループで参加できる形を考えていきたいです。

感想

この度は本当にお世話になりました。不安しかなかったスタート時から、皆さんの明るく寄り添ってくれる言葉に支えられました。計画が動き出すと、後は勢いで突き進んだ感もありますが、これもハンドブックや事業報告等があったから出来たことだと思います。今後にも活かせる、とても良い指標となりました。



徳島 淡島学園

徳島県阿南市 指定障害者支援施設

事業所の紹介

社会福祉法人 阿南淡島会 障害者支援施設 淡島学園の前身は、昭和31年11月精神薄弱児施設を運営するために設立された財団法人で、昭和52年8月社会福祉法人に移行しました。障害のある利用者それぞれの個性に応じた多様な福祉サービスの提供を通じて、利用者一人ひとりが個人の尊厳を保持しつつ、地域社会で自立した日常を営む事ができるよう支援することを目的に設立した団体です。近くには淡島海岸があり、緑の田園風景や山に囲まれた、自然あふれる環境で、現在入所76名と通所20名の方が利用されています。

応募の動機

新型コロナ流行により、交流行事や外出等の行事を中止・変更しなければならなかった3年間を経て、コロナを取り巻く社会状況も変化した今年度、「やっど動き出せる」そんな喜びを利用者さんと一緒に感じられる事を探したい、せっかくだから新しいことに挑戦してみたいと思い応募しました。

招聘作家と実施内容

〈招聘作家〉わけべのりこフラスタジオ 栗 怜子さん、庄野泰子さん

利用者さん全員参加のフラダンス教室「みんなでいっしょにおどろうフラダンス」を開催しました。当日使用する衣装や会場の飾り付けを、利用者さんと職員で2ヶ月かけて制作し、当日は県の企画ともコラボし、徳島県公式マスコットキャラクター「すだちくん」と、ご当地お笑いタレント「セカンドストーリー長谷川さん(はせちゃん)」を招き、約1時間半のワークショップを実施しました。はじめに講師の方の踊り「真珠貝の歌」を見学した後に、「アロハウクレレ」の踊りを教えてもらい、最後に仕上げとして、曲を通して踊る体験をしました。



事業所の紹介

香川県高松市にある福祉事業所です。居宅介護支援、訪問看護、療養通所介護、放課後児童クラブ等幅広い事業を行っており、その中で「ゆずぽっぷ」は児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、療養通所介護の部門で、様々な障害を持っていたり、医療的ケアが必要な、赤ちゃんから高齢の利用者さんが一緒に過ごしています。専門職のスタッフチーム一丸となって、体のケアや療育を行い、利用者の皆様が笑顔で過ごせる場所を目指し、日々奮闘しています。

応募の動機

プロジェクトのチラシを見て、是非アーティストさん呼びたい、と思いました。それまでも、身近な繋がりから、音楽療法の先生、マジックショー、工作の先生等お招きしたことはありましたが、利用者さんがもっと多くの体験をし、いろいろな人と触れあ合って、世界を広げて行けたら、と思い応募しました。

招聘作家と実施内容

〈招聘作家〉mimikaさん(シンガーソングライター)
「mimika クリスマスライブ」と称し参加型ライブを開催しました。一緒に歌ったり踊ったり、パネルシアター、けん玉大会など盛りだくさんの内容でした。また、mimikaさんへのお礼として一か月練習してきたハンドベルの合奏も披露しました。



実施しての感想

いろいろなアーティストさんに来ていただきたいと思いつつ、なかなか実現できなかったところを、パスレルさんに背中を押して頂いた形になりました。困った時に相談させていただくと、すぐにお返事くださり解決できたこともあり、常に暖かく励ましてくださったことで勇気をいただきました。

スタッフも協力的な雰囲気の中スタートしたものの、大変忙しい時期と重なり、思うように進まず苦慮していたこともありましたが、でも最終盤スタッフ・利用者さん皆で団結して迎えた当日、予想以上の楽しさと感動を味わうことができ、実施して本当に良かったと実感！世界を広げる第一歩が踏み出せたように思います。

参加者の様子

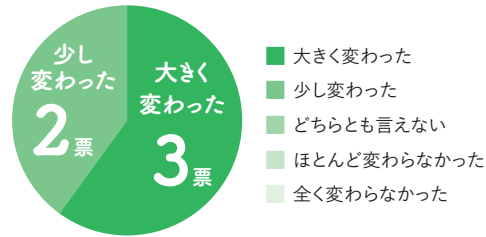
2歳～90歳までの利用者さん、ご家族、職員など合計45名が参加、子どもも大人もみんなで盛り上がりました。パネルシアターのクイズ、けん玉大会には多くの子が積極的に参加。以前からmimikaさんの大ファンである中学生の男子は、ご家族が勢ぞろいで来てくださり、その前で弟と共にけん玉に挑戦し、場を盛り上げてくれました。長年mimikaさんの追っかけをしていた50代のご夫婦はご主人の難病によりライブに行けなくなりましたが、デイサービスでまさかの再会！mimikaさんと三人で感激のあまり大泣き、といった場面も。帰りがけには皆さまから「楽しかった～♪」とお声をいただきました。

今後の展望

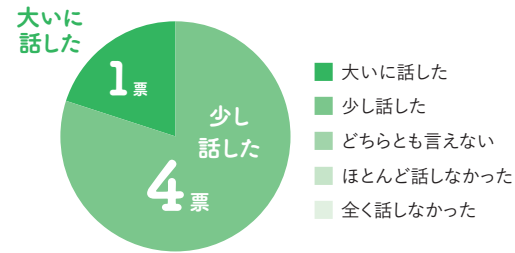
mimikaさんライブは大変好評で、多くの方から「毎年来てほしい」とのご意見が寄せられており、継続して来ていただきたいと考えています。また、今後は美術、演劇、音楽など多方面からアーティストさんをお招きし、利用者さんに楽しい世界をもっともっと知ってほしい！そんな思いでいっぱいです。そして今度こそスタッフ皆で作り上げ、更に充実した企画を計画したいと思います。



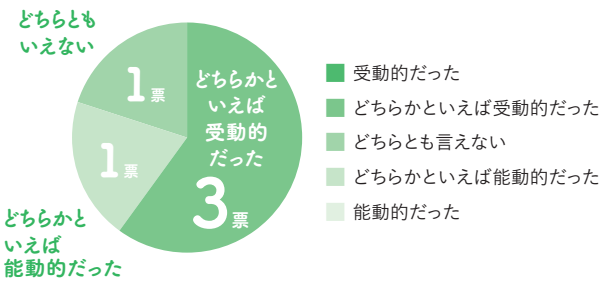
Q1. 本企画をおこなって、職員のアーティスト(アート活動)に対する見方は変わりましたか?



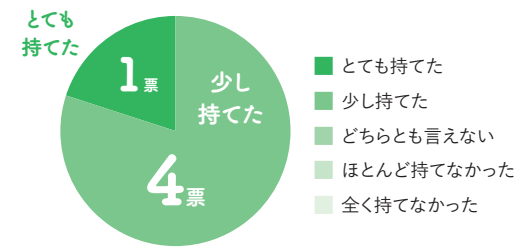
Q2. 本企画の準備段階で、利用者さんと企画の事で話をしましたか?



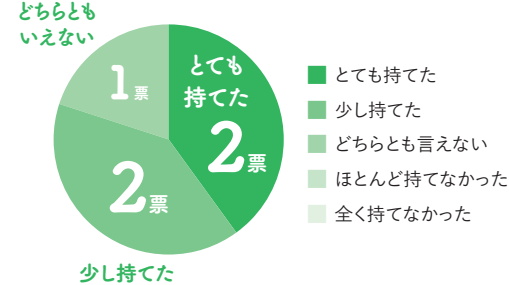
Q3. 本企画を実施しているときの職員は『能動的だった』or『受動的だった』、どちらの感覚がありましたか?



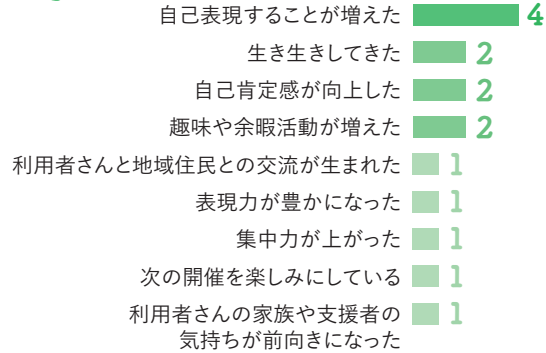
Q4. 本企画を通じて、職員は文化芸術活動に興味や関心を持ちましたか?



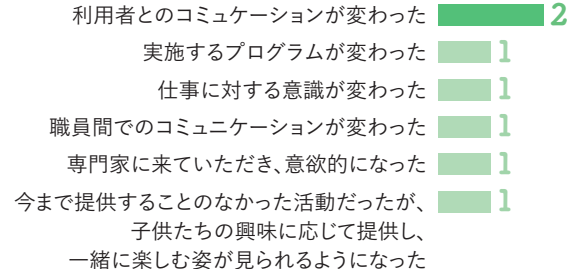
Q5. 本企画を通じて、利用者は文化芸術活動に興味や関心を持ちましたか?



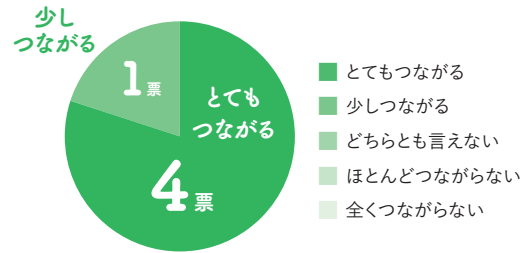
Q6. 利用者さんにどのような変化がありましたか?



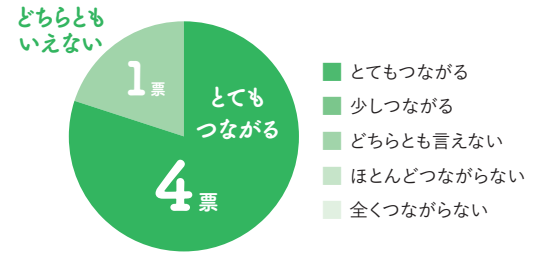
Q7. 職員にどのような変化がありましたか?



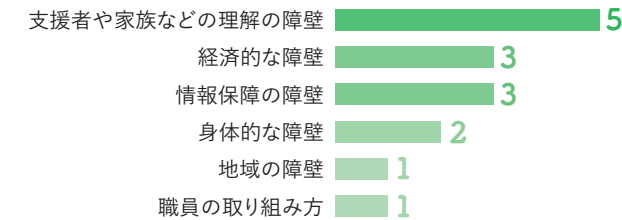
Q8. 文化芸術活動は障害者の社会参加につながると感じますか?



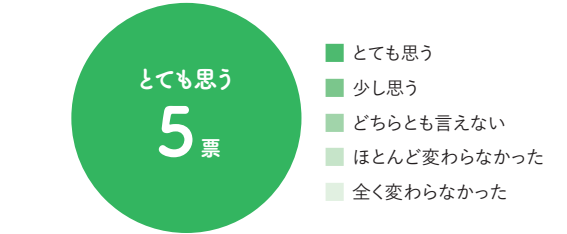
Q9. 文化芸術活動は障害者の生活の支援につながると感じますか?



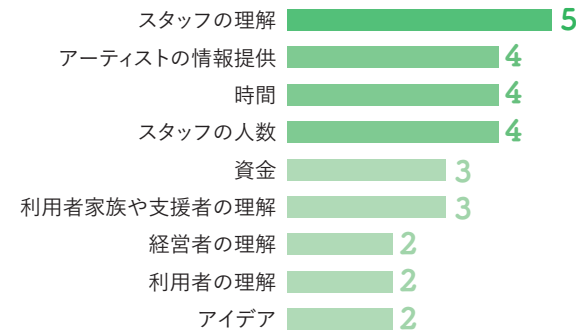
Q10. 文化芸術に取り組みたいと思っている障害当事者にとっての障壁は何ですか?(複数回答可)



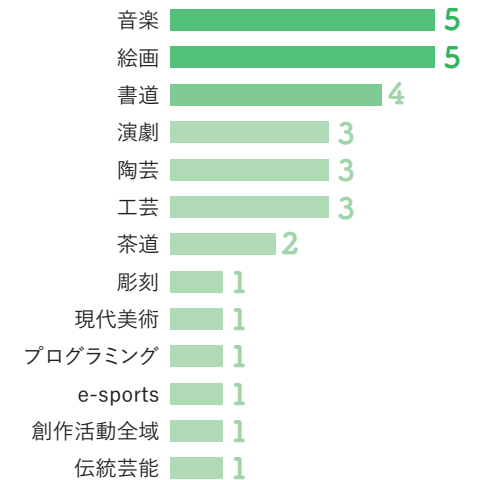
Q11. 今後も文化芸術活動に取り組みたいと思いますか?



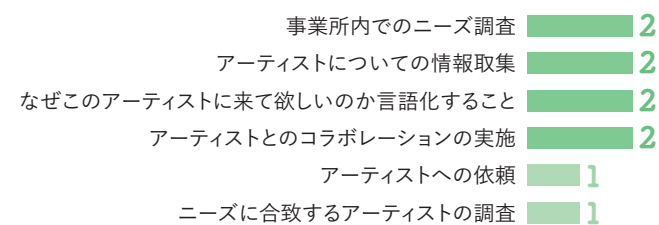
Q12. 文化芸術活動に取り組んでいくために必要な支援はなんですか?(複数回答可)



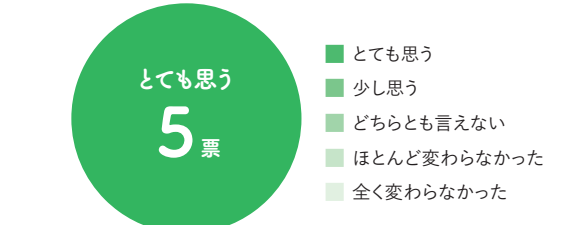
Q13. 今後取り組んでみたい文化芸術のジャンルはなんですか?(複数回答可)



Q14. 今回の事業に取り組んでみて最も手助けが必要であったと思ったことはなんですか?



Q15. 本企画に取り組んでみてよかったですか?



座談会

ファーストステップを通して



P.42



P.40



香川

在宅療養ネットワーク
ゆずぼっぴ
滝口俊子さん



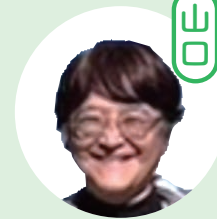
徳島

淡島学園
松葉幸子さん



広島

つくしんぼ作業所
澤岡三希子さん



山口

チャイルドハウス
ひなたぼっこ
原田幸子さん



島根

あぞら児童クラブ
えすぱす
長沢嘉之さん



P.48



P.46



P.44

—まずは、それぞれの事業所の概要と、今回どんな取り組みを行ったかについて教えてください。

ゆずぼっぴ 香川県高松市にある「ゆずぼっぴ」です。児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、療養通所介護を行っており、年齢も障害も疾病もさまざまな方々が一緒に過ごしています。

今回の企画への参加についてですが、これまでも身近な人の伝手で音楽療法、マジックショー、工作などの講師の方をお招きしたことはあったのですが、利用者さんがより多くの体験をし、いろいろな人と触れ合って世界を広げていけたらいいと思い、応募しました。

今回私たちが依頼したアーティストは、香川県を中心に活動しているシンガーソングライターのmimikaさんで、県内ではほとんどの人が知っているというぐらい大変ご活躍されている方です。利用者さんの中にmimikaさんの大ファンだという中学生がいたのが依頼をするきっかけになりました。

mimikaさんからは快いお返事をいただき、クリスマスライブを開催することになりました。内容については、mimikaさんからもいろいろと提案していただきまして、利用者さんも一緒に歌ったり手拍子したり踊ったり、けん玉大会に子どもたちが挑戦したり、クイズ大会もやりました。また、ライブまでに利用者さんが会場の飾り付けの制作をしたほか、1ヶ月ほどハンドベルの合奏の練習をして、ライブの最後にmimikaさんへ演奏をプレゼントすることもできました。

利用者さんの反応は「また来てほしい」という声がとても多かったです。中でも寝たきり状態の利用者さんが、以前はご夫婦で追っかけをするぐらいmimikaさんのファンだったことが後から分かり、mimikaさんご自身はその利用者さんのことを覚えていらして、まさの再会にみんなが泣いて抱き合いながら喜んだというシーンが一番印象的でした。

いろいろなアーティストさんに来ていただきたいと思いつつ、なかなか実現できなかったところを、今回はパレルさんに背中を押していただけと思っています。依頼の仕方やメールの書き方まで教えていただき、常に暖かく励ましてくださったことで勇気をいただきましたし、とても勉強になりました。

ただ、私としてはスタッフ全体を巻き込んで取り組めたかった部分があり、最初は他のスタッフも協力的な雰囲気だったのですが、スタッフの退職や長期休職などが次々続き、各自の仕事量が激増しまして、協力を仰ぐにも



仰げない雰囲気になってしまい、結局はほとんどの部分を私が一人で進めてしまいました。チームを作って役割分担しながら取り組みたかったのですが、それをできなかったことが反省点です。

淡島学園 徳島県阿南市にある「淡島学園」です。設立は大変古く60年以上になります。現在は障害者支援施設として76名が入所、20名が通所で利用されています。

コロナ禍で3年ほど外部講師を招く行事がストップしていたことで、園内行事に滞りを感じておりました。社会状況も変化した今年度、「やっと動き出せる」という喜びを利用者さんと一緒に感じられる行事をしたい、せっかくだから新しいことに挑戦してみたいと思い、今回の企画に応募しました。

取り組みとしましては、以前、園内行事でフラダンスショーを行っていたときにお世話になった、わけべのりこフラスタジオさんをお願いをして、今まで見ていただけの立場だった利用者さんも全員で参加するフラダンス教室を開催しました。当日使用するスカートなどの衣装や会場の飾り付けも2ヶ月かけて制作しました。当日は、最初に講師の方の踊りを見せていただいて、その後みんなで日本語の歌詞に合わせて、動きの意味を教えもらいながら踊るワークショップになりました。

また、県の企画ともコラボし、徳島県公式マスコットキャラクター・すだちくんと、ご当地お笑いタレントのセカンドストーリー長谷川さんを招くことができました。ローカル番組でもとても人気がある方達に会えたことで、利用者さんのテンションも高かったと思います。

11月14日に実施して4ヶ月が経とうとしていますが、未だに利用者さんが「楽しかったなー。またしような」と言ってくれています。

つくしんぼ作業所 広島県広島市にある「つくしんぼ作業所」です。小さな生活介護の事業所で、現在は16名のメンバーさんが利用されています。

今回の応募の動機は、広島県のサポートセンターさんからの案内状でした。私たちが普段行っているアート活動は、季節ごとの創作をしたり絵具を使って自由に描いたり、職員主導で行うことばかりで、なかなかメンバーさんから「やりたい!」という気持ちを引き出すことができず、みんな楽しいのだろうか?やらされているだけなのではないか?これを続けてメンバーさんの好きなことを増やす手助けになるのかな?と不安になっていました。そんなときにちょうど案内をいただきまして、何かのきっかけになればいいなと思い応募させていただきました。

ほぼ知識ゼロからのスタートで、周りの助けも期待できない環境でしたのでとにかく不安でしたが、パスレルさんと気軽に連絡ができるという安心感から、気持ちも前に向けるようになり、広島県のアートサポートセンターさんの力をお借りしてなんとか方向が固まり、実現することができました。

活動内容としましては、“やらされている”感じではなく、メンバーさんが自主的に動ける、自分のやりたいことで前に出られるようなアート活動をしたかったので、ダンスや演劇など体でアートを表現する玖島雅子先生をお呼びし、「バリエードダンス」のワークショップを行いました。

地域の集会所をお借りし、まずは長机をバリエードのように積み上げて、それに色を染み込ませたトイレットペーパーや毛糸などをみんなで思いっきり投げたり、事前に描いていた自分が将来住みたい家の絵を飾り付けたりして、カラフルなバリエードハウスを作りました。そして、先生に引っ張っていただきながら全員で踊ったり、一人一人が即興で踊ったりして、最後はみんなで思いっきり壊して終了しました。



私たち職員には「アート=何か形あるものを創作する」という固定概念がありましたが、今回のワークショップをきっかけに、いろいろなアートがあり、いろいろな自己表現もあって、何でもできるんだという体感ができました。また、完成して終わりではなく破壊までする。物を壊す、なんていうのは普段やりませんから、メンバーさんはそこが一番楽しかったんじゃないかなと思います。今後の活動の視野が広がりました。

チャイルドハウスひなたぼっこ 「チャイルドハウスひなたぼっこ」は山口県光市にある放課後等デイサービス事業所です。

登録者は40名近くいらっしゃいますが、利用については1日10人の枠しかないため、全員を集めて行うイベントというのが難しい状態でした。また、普段はいろいろなものを作ったり、歌やダンスを楽しんだりしていますが、山口県は障害者関係の相談センターや活動の発表をする場がなかなかなく、なんとか子どもたちの才能を伸ばしてあげられないか?ということ、平日頃スタッフたちは思っていました。そんなときに、偶然パスレルさんのDMが届きまして、すぐに応募させていただきました。

ただ、どんな取り組みを行おうかとスタッフたちと相談をしても、なかなかひらめかない、どういうものか分からない状態で、しかも、当事業所は常勤が3名、他は週に何時間かだけ勤務するパートさんなので、スタッフがまとまって企画を考える時間を取ることが難しく、私が進めていくような状態でした。ずっと悩んで、パスレルさんに企画内容を伝えることもなかなかできず、ご迷惑をおかけしました。

子どもたちにやりたいことを聞いたりもしたのですが、全員の意見を取り入れるのは難しいなと悩んでいたところで、パスレルさんから「男の子が多いんだったら基地作りが好きですよ」というアドバイスをいただきまして、普段からダンボールを使って家や迷路を作るのは大好きだったので、なにか大きなものを制作する方向性に考え始めました。

また、山口県で自然を生かしたアート活動をされている方から、「竹でジャングルジムやアスレチックを作ってみたらどうだろう」という提案をいただきまして、竹であれば、近所に創作活動に協力してくださる里山があり、竹は自由に使えると思い、竹を使ったアート活動としてピラミッド型のジャングルジムの制作することにしました。

子どもたちは、初めて使う電動工具などに興味を示したり、男の子はこのこぎりを一生懸命使って竹を切ったり



していました。また、人との繋がりも経験してほしかったので、お昼はみんなでカレーを食べるなどして1日楽しく過ごしました。

子どもたちは本当にいきいきと活動してくれたんですが、反省点としては、先にお話したように1日10人の枠しかないため、全員の子どもたちに参加してもらうことができなかったことがあります。他の場所を借りれば全員が集まることできたと思いますが、これだけのものを作るのであれば、事業所の庭に設置したい気持ちがありました。設置は2週間ほどでしたが、事業所を利用するほとんどの子どもたちが遊べたので、その点は良かったかなと思います。この経験を生かして、また新しい挑戦をしていきたいと思っています。

えすばす 島根県松江市にある放課後等デイサービス事業所「えすばす」です。小学生から中学生まで、登録は20人ほどいますが、利用するのは1日10人限定となっています。

選考に通って職員間でどのようなことをやってみたいか話し合ったときには、様々な意見が泡のように出ては消えを繰り返しました。そもそも、できること・できるであろうことや興味の方向が違う子どもたちが、一つのテーマを持って物事に取り組んでみるということが可能なのか、それは普段の生活の中で提供している活動とどのように違うのだろうか、ましてそれが文化芸術活動であるということに、みんなが尻込みしているのではないかと感じました。

そんな中で、パスレルのみなさんが来所されたときに「全員にはまることはまずなく、偏ることもあるだろうけど、それならば、もう最初からゼロベースで、誰も得意としないところからスタートする考え方もある」とアドバイスをいただいて、それから活発に意見が出るように

なりました。

スケジュールが押し迫ってくる中で紆余曲折ありましたが、今回はプログラミング言語のスマウルビーを用いた活動を主催する方を講師として招くことに決まりました。

当日は、本体やモニター、キーボードやマウスなどがどんな風に繋がっていくかというところから分かりやすく説明していただき、すごく集中してやっている子がいたり、「この子は興味がなさそうだな」とこちらが勝手に思い込んでいた子が、すごく反応が良かったり、いろんな発見がありました。

スタッフの足並みを揃えるという点においては、全員で第一歩を踏み出し、一緒に進めていこうと思うとなかなか進めなくて、ある程度進んだところで共有すれば良い反応を示してくれるので、なかなか理想通りにはいかないものだなと実感しました。

また、アートに対して自分の中に障壁があり、他の人も同じように感じていて、でもその度合いにはかなり違いがあるんだと感じました。ただ、取り組みの最後に講師の方が「今の時代、この国では何もなくても食べていける子たちが多くけど、自分が興味を持ったことが他の人に価値を与えることがある。そうなるものとして誰かに刺さればいいのではないか」というようなお話をしてくださいまして、今回の取り組みを行って良かったのではないかと思います。

——みなさん、ありがとうございます。それぞれの事業所がどんな取り組みを行ったのか、共有できたでしょうか？

この事業は何を行うかは決まっておらず、事業所が主体となって考えることを重視して取り組んでいただきました。企画をするまでのしんどさや、産みの苦しみもあったようですが、改めてその点はいかがでしたか？

ゆずぼっぶ 本当に忙しい時期に重なっていたので、もう「どうしよう!どうしよう!」みたいな感じでした。他のスタッフと一緒に考えてもらうのを申し訳なく感じて、結局は自分1人で考えましたが、終わってみるとやっぱりその点はとても残念だったと感じます。

私自身、企画を終えたときに大きな感動と達成感を感じられまして、この気持ちを他のスタッフとも共有できなかったなと思ったんですね。どんなに忙しくても、ほんの少しでも一緒に考えてもらったら良かったなと。そのときの状況のせいにはしてられないなと思いました。

淡島学園 一部の利用者さんが楽しめることよりも、利

用者さん全員、重度の方も一緒に楽しめることをしたいと考えていたので、企画内容を考えることが一番大変でした。みんなの意見を知るために行ったことは、フラダンスをはじめとするいろいろなパフォーマンスのイラストを見せて、利用者さんから多数決を取る方法です。重度の方もある程度意思表示をしてもらえるので、企画を決めるときに役に立ちました。

また、会議ではなかなか意見が出づらいため、普段の職員同士の会話の中でみんなにアドバイスを求めることも多かったです。県とコラボするアイデアについては、若手スタッフがウェブで見つけて教えてくれました。うちの職場の平均年齢は高めで、「今までこうしてきた」という前例がベースにあり、若手スタッフの意見がなかなか言い出しづらかったり、今までの流れに従ってやってしまう面も多いのですが、今回、私がみんなに協力を仰ぎながらやっている様子を見て、若手スタッフもそれぞれに心配してくれたり、興味関心がある部分で積極的に参加してくれたのは、一つの発見だったかなと思います。

つくしんぼ作業所 うちの事業所は、何か企画をするときは一人の職員が行うことが恒例となっており、特に忙しい時期だったこともあって周りの職員を巻き込むことができませんでした。他の業務と並行しながら一人で準備するのは本当にしんどかったです。

当日は、講師の方から「職員さんも楽しんでください」と言われていたので、私は結構楽しんだのですが、他の職員さんはやはり利用者さんのフォローに回っていたので「楽しむ」ということまでは共有できなかったかなと思います。

チャイルドハウスひなたぼっこ うちもスタッフを巻き込むのはなかなか難しく、企画内容を考える時間がなくて、そこから広げていくような話し合いもできない状態でした。自分一人で抱えてしまっているのが苦しく、かといって他のスタッフの仕事をこれ以上増やすのもいけないし…、と思いながら企画を進めてきました。

ただ、そうした中でありがたかったのが、パスレルさんが来てくださったときに「そんなに難しく考えなくて、子どもたちが日頃やりたいけどできないことを企画にすればいい」と言ってくださったことです。

光市は子どもの遊び場が少なく、事業所の近くにある公園も大きな声を出してはいけないので、なかなか外遊びができない状況でした。そこから出てきた企画が竹のジャングルジムだったんです。今回、取り組みを行ったこ

とで地域のみなさんとも繋がりが持てましたし、保護者の方からも「こういうこともやってみたい」といった声もいただきました。今後は「挑戦する」ということを年間行事の中に入れていけたらいいなと思っています。

えすばす みなさんのお話をお聞きしまして、同じような悩みを抱えておられたんだなということを感じました。企画を決めるまでのところは、特に夏休みに入ってしまうと時間がなくて難しかったですね。

他のスタッフに助けられた部分が大きかったです。この事業に応募しなければなかった苦労なのかなと思ってしまうときもありましたし、「なんか申し訳ない」と思う気持ちが先に立ってしまって頼みにくいこともありましたが、ただ、パートさんなども含めて職員全員が同じテンションで働いているのではないと考えるなかで、取り組みの準備や当日において「この職員は、こんなに情熱を持っていたんだ」という大きな発見もありました。



——えすばすさんが仰られたように「申し込まなければ、こんなしんどさはなかったんじゃないか」というのは、その通りだなと思います(笑)

今回やってみて思ったのは、企画を考えるまでが大変だったという方が結構いらっちゃったなということです。この「ファーストステップ」というのは、正直どんな企画をやっても構わないんです。企画当日の結果よりも、それまでの「企画をどうする?」とか「依頼はどのようにするのか?」といったノウハウの部分を経験していただくことがこの事業の大事な部分だと思っています。

私自身もそうなのですが、日々支援をしていますと、企画のこととプラスして、「利用者さんが喜ぶかな?」とか、「あの利用者さんがこれをやったら、状態が良い方向に向くんじゃないかな?」といったことも考えないといけ

ないと思うんです。ただ、二つのことを考えるから、難しくなってしまうのかなとも感じます。

では、今回、知り合いではないアーティストをお呼びした方にお聞きしたいのですが、依頼をするときは、しんどかったですか？

ゆずぼっぶ そうですね。自分でメールを打ちながら「ご活躍されているアーティストに、こんなメールで突撃していいのかな?」と思っていたんですが、パスレルさん丁寧に添削していただいて送ることができまして、それに対してアーティストさんからお返事が来たときは本当に感動しました。こういうやり方でできるんだなと思いました。

——メールは、アーティスト目線で「こういう情報が欲しい」という添削を行いましたね。

知り合いではないアーティストさんへメールを送ってみて、壁って意外と高くなかったんだと感じたり、新しい繋がりが生まれていくのは、このファーストステップの醍醐味かなと思います。つくしんぼ作業所さんはいかがですか？

つくしんぼ作業所 広島県のサポートセンターさんが、とても親身になって相談に乗ってくださり、そこから連絡を取ってもらいました。ただ、企画書を出さないといけなかったのですが、企画書なんて書いたこともなかったですし、書いて送っても「何がやりたいの?」といった感じで思いは伝わらず…(笑)最終的には実際にお会いしてしっかり話をしてまとまった、という形でした。

アーティストは違う世界にいる方で、とにかく怖いようなイメージを持っていたんですが、そんなことはなくて、すぐに受け入れてくださって、やりたいこともすぐに理解してくださいましたね。

淡島学園 私たちの場合、以前来ていただいたことがある講師の方でしたが、今回は利用者さんに見せるだけではなく、踊りを教えてほしいという企画でしたし、利用者さんの中には重度の方もいれば自閉症の方もいます。講師の方がハードルを高く感じてしまうのではないかという不安はありました。ただ、最終的には当たって砕けろの気持ちで依頼をしたのが良かったのかなと思います。

講師の方には、打ち合わせのときに施設内見学をしていただきました。そして、どういった状態の利用者がいるかを知っていただいた上で、選曲などの参考にさせていただきました。当初は華やかな曲が良いなど、いろいろな



意見がありました、重度の方がいらっしゃるのでもスローテンポで、尚且つ日本語の歌詞であればより伝わりやすいのではないかと、という感じで深く打ち合わせをさせてもらいました。

——では、最後に改めて今回本事業に参加してみたいの感想をお願いします。

また、今後同じような事業に応募する際、あるいは、自分たちの事業所でアート活動を企画する際にあると嬉しいフォローアップがあれば教えてください。

ゆずぽっぷ 何か行き詰まったときに相談できる場所があると嬉しいなと思いました。また、今回こちらの座談会に参加させていただいて、他の事業所さんのお話を聞くのはすごく役に立つなと思いましたので、取り組み中にもそういう機会があるといいですね。

淡島学園 外部の方を巻き込んで企画をするというのは、施設内だけではできない経験が得られると感じました。ぜひ若手のスタッフにも経験してもらいたいです。

チャイルドハウスひなたぼっこ 山口県にもサポートセンターができるといいなと思うんですが、自分達ができることとして、子どもたちの作品をいろんな人に見ていただく、そして、それを伸ばしていける場をどんどん積み重ねていければいいなと思っています。

また、今回の経験を通してですが、早めにお知らせをしていたら保護者の方ももっとたくさん参加していただけたし、場所を限定しなければより大きな企画のアート活動もできるのかなと思いました。

子どもたちにとっては、講師の方やパスレルさんといった、外部の方とのコミュニケーションの場にもなりましたので、そういった面でも良かったと思っています。

えすばす アート活動に対して自分の中では確かにハードルが下がったなと思っていて、今回は繋がりが無い方に向けてのメールの書き方などをスキップしてしまったので、次に取り組む機会があれば、そういったところでパスレルさんにアドバイスをお願いしたいです。

また、自分一人で悩まなくても、きっと周りの職員たちも同じようなスタンスで、同じようなことを考えながらやっていて、足並みを揃えていくことも自分が決められるものではないんだな、ということが分かりました。長い目で見たときに結果として良かったなと思える取り組みを、これからも進めていきたいと思います。

つくしんぼ作業所 パスレルさんは「とにかく事業所主体でやりましょう!アドバイスが欲しかったらいつでも聞いてください」というスタンスでいてくださったと思うんですが、遠慮して相談しにくい部分もあったかなと感じます。定期連絡制度のようなものがあれば、そこに照準を合わせて相談ができて、よりスムーズに決められたかもしれないと感じます。

——ありがとうございます。本当にその通りですね。自由すぎると不自由というか、企画がなかなか決まらないところがあったのかなと思います。

みなさんのお話を聞いていて思ったのは、それぞれにしんどかったときがあったんだなと。その中で、みなさんを突き動かしていたのは、「利用者さんが喜ぶために頑張ろう」とか、「保護者のために頑張ろう」という思いだったのかなと思います。

来年度、事業に参加される方もみなさんと同じようなしんどさを共有するのかなと思いますが、こうしたら成功できますよという虎の巻を渡さないのがファーストステップのいいところなのかなとも考えています。

今後もみなさんにその後の活動の継続などについてお聞きするかもしれません。これからもよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

共に生きるために

《パスレルメタバースプロジェクト事業趣旨》

パスレル
芸術文化コーディネーター

土谷享

メタバースという単語を頻繁に耳にするようになってきた。オンラインゲームでは10年以上前から世界中で楽しまれてきている。一方で、あまりにも没入すぎて寝食を忘れ、依存状態になる人もいる様だ。香川県では「香川県ネット・ゲーム依存症対策条例」が施行されたことは記憶に新しい。

オーストリア出身の哲学者イヴァン・イリイチが1973年に出版した著書「コンヴィヴィアリティのための道具」では、人は人が作った道具(この場合、制度や技術など幅広い意味を持つ)に支配されてはならず、人は道具を使う側に居ることが、我々が生き生きと自発的かつ創造的に共に生きていく術であると説く。いまこの著書があらためて注目されている背景には、猛スピードで常に更新され続けている人と人、人と物の関係性の在り方に人々は戸惑い不安定であることもあるだろう。かつては街中の表裏にあった様々な場やコミュニティは、いまではメタバースも含む多様な場やインターフェイスが存在していて選択肢は一昔前よりも格段に増えている様に感じるが、なぜか孤立や孤独というワードを耳にしない日は無い。我々が新たに目にするコミュニティは共に生きる為のコミュニティなのか、それとも資本主義などの道具の肥やしでしかないのか。私はそのどちらの可能性も含むと思っている。つまり使い方次第ということだ。

アートの場合、表現する人の表現の表出を取り持つ構成要素をメEDIUMと云い、そのメEDIUMが複数の要素で構成されて鑑賞者へ伝える媒介となるものをメディアと云う。水彩画、木彫、テキスタイル、音楽、ダンス、これ全てはメディアである。そしてメタバースも一つのメディアにもなり得るメEDIUMの複合体である。一方で近年では、メEDIUMを特定しないアートプロジェクトも多くなってきている。さらにその先に、アートの専門家ではない多様な属性や専門性の人々が集まって社会課題やコモンズに向き合うアートコレクティブという動きも出てきている。ここまでくると、障害者芸術文化活動の中でよく耳にするアールブリュトの

概念にも通底する部分もあるが、しかしそれは大きく異なりアップグレードされているのは活動の中に「共に生きる」を内在しているということである。

パスレルでは共に生きるための道具(コンヴィヴィアリティのための道具)としてメタバースプロジェクトに取り組み始めた。しかしこの道具を使いこなすには、加入儀礼がたいへん複雑であり、専門家か突出したオタクの協力を手放すことは出来ない事が今年度の事業を進めていく中で明確にわかった。これは悪い意味ではない。多様な属性や専門性をもつ人々が手を取り合う関係性を築くためにむしろこの複雑さはプラスの要素に働かせることが可能だ。我々はどうしても効率性の上で同じ考え方や属性を持つグループに集まったり困らだりして、界限を作ってしまう。しかし社会とは多様で異なる属性の人々が遊動する共異体として理解した方が自然ではないだろうか。その上で、メタバースをユニバースの中で使うことも可能なのだ。このプロジェクトを貫徹しようと、新たな関係性の中で四苦八苦する事が共に生きることでもある。そうして立ち上げるメタバース内でのワールドでは、障害の有無は関係なく、誰もがアバターを通して体験しコミュニケーションする。ユニバースでは生きづらさを感じている人でも新規の関係性が構築できる。アバターの操作さえできれば、現実では身体に障害があってもメタバースでは自由に移動できる。こうした人々が新たな活動を始めたり共同で創作したりすることもできる。そう、煩雑な加入儀礼さえクリアすれば、できることは沢山ある。障害は社会が作っているという考え方がある。しかしここにはまだ社会は存在せずヘテロトピアのみが存在する。つまりここでの障害とは誰にとっても単なる課題にしかすぎない。どうにでもなりうるヘテロトピアに価値の始原を見出し、それをプロジェクトとして構成し、とにかくやってみる。パスレルがメタバースという概念を使って目指すのは、今まで無かった出会いと創作の場をつくらうとする事で、共に生きるための関わりしるを今よりも増やすということだ。

Blue Sky Stadium

野球盤ができるまで

プロジェクト名: Blue Sky Stadium

リアル作品名: 野球盤、ネジ人間

リアル作品作者: 特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知青い空

制作年: 2022年~2023年

リアル作品素材: ミクストメディア

メタバース制作: 特定非営利活動法人 MORILAB

公開日: 2023年12月26日(火)

<https://cluster.mu/w/b796adf2-a7e9-4ff9-9b82-217fa7d44825>



『Blue Sky Stadium』プロジェクトは、NPO法人 脳損傷友の会高知青い空(以降:青い空)の活動から制作された「野球盤」という作品をメタバース化したものです。青い空は事故などの後遺症で「高次脳機能障害」を抱えている方々やその他の障害のある方々の就労や生産活動の場を提供しており、機械類の解体などの様々な活動を通じて、知識と能力の向上に必要な訓練を行っています。こういった作業から出る廃材を廃棄するのではなく、素材(マテリアル)としてリユースやアップサイクルすることにも取り組んでいます。

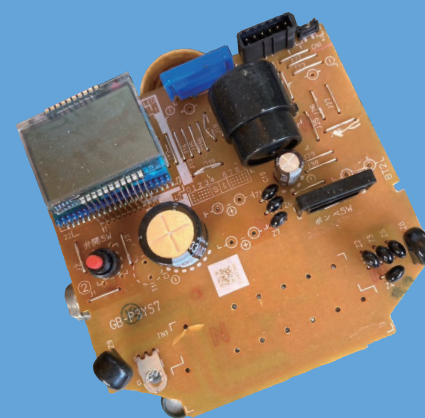
球場の芝生やフェンスは、機械についている基盤を使っています。基盤には様々な部品が付いているため、一つ一つ部品を取り除く必要がありますが、これが時間のかかる作業でした。



1つの基盤をきれいに処理するのに約10分かかります。外した基盤の部品で観客席を作るのですが、全て手作業で行うため、基盤を丸く切るのも線を引くのも難しく、何と言っても手が痛い。それでもコツコツ制作を続け、やがて出来上がりが見えてくると、作成に携わっていなかった他の作業仲間の人も関心を示してくれるようになりました。

そして作業の中からネジ人間の野球選手も誕生します。観客席にはネジ人間を座らせようというアイデアが生まれ、野球場作成班とは別でネジ人間班が結成されました。徐々にネジ人間で観客席が埋まってくると、ネジ人間の表情がどんどん豊かに変わり始めました。仲間同士で出来上がったネジ人間を見せ合い、お互いに刺激をあいながら、独創的なネジ人間が出来上がりました。

そうして、野球盤は青い空のみんなで意見を出し合い、失敗を重ねながらなんとか完成させることができました。作成にはのべ3か月を費やしました。



※Blue Sky Stadium・Blue Sky Zooへの入場には、無料アプリ「cluster」のダウンロードが必要です。アプリのダウンロード、ユーザー登録をした後に、スマートフォンであればQRコードのスクリーンショット、PC・タブレットであればURLより入場し、メタバース空間を楽しむことができます。

Blue Sky Zoo

動物園の動物たち

プロジェクト名: Blue Sky Zoo

リアル作品作者: あっくん、大江泰喜、かっちゃん、島田國光、しんくん、だいくん、K、Kaito、K.M、りおん、みーちゃん、メレンゲクッキー

メタバース制作: 特定非営利活動法人 MORILAB

公開日: 2024年3月21日(木)

<https://cluster.mu/w/3c464b85-0bcd-42f0-bb67-0da86d2a77ec>



パスレルメタバースプロジェクト第2弾では、動物をテーマに公募を行いました。集まった16作品を3Dスキャンして、作者と鳴き声を考え、動物の動きを「ぐるぐる」「はねる」「こそこそ」「とびまわる」などのシンプルな動作のパターンの中から選び、シンプルな動きで動物らしさを表現できないかを挑戦しました。



犬のわんちゃん

作者:みーちゃん
素材:紙(新聞、折り紙)



前日に作ったネコの妹用を作るうちに、自分用の犬(ネコの友だち)が欲しくなり、犬を作りました。前日のネコは一人で作りましたが、今回は支援員に手伝ってもらいながら制作。普段は恥ずかしがったり、難しい(できない)と決めてしまい取り組みなくなることがありますが、自分で作った達成感とみんなに褒めてもらえたことが自信となり、また作ることができました。

鉄ドリ

作者:K
素材:ネジ、真鍮、銅線、ガラス



就労継続支援B型事業所 青い空が生産活動としておこなっているガスメーターの解体作業で出る廃材(マテリアル)を使い、K氏が制作しました。

みみーちゃん

作者:りおん
素材:紙(新聞紙、折り紙)



お母さんがアレルギーで飼えないからと制作した大好きなネコの『マイペット』。新聞とチラシを使い分け、部位によって折り方や丸め方を変え、考えながら作ることができました。数日は事業所に飾る予定でしたが、『マイペット』なので自宅に連れて帰られました。

トナカイ

作者:かっちゃん
素材:紙粘土



トナカイの餌

作者:あっくん
素材:粘土、フェルト



森の動物たちの餌の「栗」。時々、動物が食べます。

アシカ

作者:だいくん
素材:紙粘土



浮き輪 (アシカとセット)

作者:だいくん
素材:紙粘土



龍

作者:K.M.
素材:セロハンテープ



セロハンテープを幾重にも貼りつけて形づくった作品。龍の全身をまとうウロコや、つめ、ひげなど細部に至るまで作り込んでいます。一度発表済みの龍の作品へさらに貼り重ねて手を加えるかたちで完成しています。

ブタ

作者:島田國光
素材:段ボール、色紙



乗り物が好きで、趣味で戦車やクラシックカーを段ボール紙と色紙などを使用して造形されていた作家さんによる作品。他にも昆虫採集(カブトムシ、クワガタ、蝶、てんとう虫)、戦車やクラシックカーなどを制作。支援員によると、本人が好きな乗り物を作っている時が一番楽しそうとのこと。

ゴールドキャット

作者:大江泰喜
素材:ティッシュ、色紙、油性マジックペン、セロテープ



5年くらい前に作ったものを新しく作り直しました。ティッシュを丸めて中綿にし、それに色紙をテープで固定して表情も作っています。優しい性格だそうです。

粉骨砕身

作者:Kaito
素材:ブロック



先生と2人でどちらのドラゴンの方がカッコいいか競い合っていました。もちろん、このドラゴンの方が羽を広げて今にも飛びたとうとしていてカッコいいです。どこまでもとんでいけます。

ローユレ

作者:メレンゲクッキー
素材:粘土



雪だるま

作者:かっちゃん
素材:紙粘土



♪ゆっきだーるま♪って歌いながら跳ねる



ピンクのぶたちゃん

作者:大江泰喜
素材:ティッシュ、色紙、油性マジックペン、セロテープ



砥部動物園のマレーバク

作者:しんくん
素材:紙粘土

5年くらい前に作ったものを新しく作り直しました。中綿がわりのティッシュを色紙で包み、セロテープで固定しています。にっこり笑う口もと、くるりんとしたしっぽがかわいいです。ブタの貯金箱がモデルなので、お金を貯めたい性格だそうです。

その他の取り組み

ブロック会議

①第1回ブロック会議(オンライン開催)

日時：令和5年4月27日(木)10:00~11:50
参加者：支援 C 11名 行政7名 厚生労働省1名

②第2回ブロック会議(オンライン開催)

日時：令和5年7月25日(火)10:00~11:50
参加者：支援 C 6名 行政3名

③第3回ブロック会議(ハイブリット開催)

日時：令和5年11月28日(月)13:00~14:50
参加者：支援 C 7名 行政5名

④第4回ブロック会議(オンライン開催)

日時：令和5年3月7日(木)13:00~14:50
参加者：支援 C 6名 行政4名



ブロック研修会

①人材育成で抑えておきたいポイントと協働による人材育成について(オンライン開催)

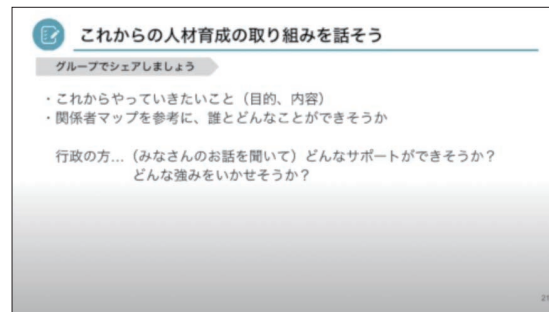
日時：令和5年7月25日(火)
講師：渡邊めぐみ 氏、櫻井香那 氏(NPO 法人ドネルモ)
参加者：支援 C 7名

②アムステルダムにおける社会・アート・福祉について(ハイブリット開催)

日時：令和5年11月28日(月)15:00~17:00
会場：岡山県立図書館サークル活動室
講師：佐藤麻衣子 氏(アートエデュケーター)
参加者：支援 C 7名 行政5名

③支援センターができる情報発信について考える(オンライン開催)

日時：令和6年3月7日(木)10:00~12:00
講師：森 隆一郎 氏(合同会社若と代表社員)
参加者：支援 C 5名 行政7名



ふらっと Flat

中国・四国エリアはブロック内の県が多く(9県)、各県へのアクセスにも時間がかかる。気軽にコミュニケーションをとるために、Zoom によるオンラインミーティングを開催しています。

①第1回ふらっと flat(オンライン開催)

日時：令和5年6月7日(水)10:00~11:50

②第2回ふらっと flat(オンライン開催)

日時：令和5年10月16日(月)10:00~11:50

③第3回ふらっと flat(オンライン開催)

日時：令和6年2月7日(水)10:00~11:50



エピソード メタバースプロジェクトから思うこと

今年度パスレルでは、発表および鑑賞機会の拡張などを目的に、メタバース内において『Blue Sky Zoo』というプロジェクトを展開した。『Blue Sky Zoo』では、中国・四国ブロックの福祉事業所を対象に動物をテーマにした作品を募集し、全16作品の個性豊かな動物たちが、メタバースという仮想空間内に作られた動物園に集結した。それぞれの作品は、作者自身が音声を吹き込んで制作した鳴き声と共に、ぐるぐると旋回したり、空を飛んだり、水中に潜ったりと作者と一緒に考えたアクション付きで園内を動き回っている。

メタバース内における『Blue Sky Zoo』プロジェクトの当初の目的は、障害者芸術文化活動における発表および鑑賞機会の拡張だったが、メタバース内での体験は単に作品を発表したり鑑賞したりすること以上の『何か』があることに気がついた。それは、制作した作品がメタバース内で生きていることに対する作者の「驚き」であり、作品を見たご家族を含む鑑賞者の側に惹起される「喜び」であり、また作者と鑑賞者あるいは鑑賞者どうしが共に作品を見たときに生じる愛のある「笑い」が存在する。現実世界とも単なるオンラインとも異なる『何か』がメタバース空間内には確かに存在していた。

昨今の我が国では、共生社会の実現に向けさまざまな取り組みが行われている。共生社会とは、多様な人々や集団が共に生き、協力し、互いに尊重し合う社会のことである。その核心は、共感を通じた感情の共有であり、他者の経験や思いに共感することだと私は思っている。『Blue Sky Zoo』の作品の動きや鳴き声は“いい意味でリアルではなく”より鑑賞者の想像力をより掻き立て、共感を深めるために一役買ってくれている。

メタバース空間内では作者も鑑賞者も、『アバター(自分自身の分身)』を介して現実世界とは別の自分になって場や他者とのコミュニケーションを楽しむことができる。つまり、メタバース空間内に存在する自己からは、共生社会を阻む要因となりうる障害の有無、年齢、性別等の要素が削ぎ落とされている。そのような背景から、メタバース空間内では「作者」と「鑑賞者」の枠組みを超え、共に驚き、喜び、笑い合うことのできる共生の場が構築できたのではないかと考えている。この『アバター』の概念こそが、現実世界とも単なるオンラインとも異なる『何か』の正体であり、試験的な取り組みによって得られたこのポジティブな影響は、共生社会の実現に向けたヒントになるのではないかと考えている。

中国・四国Artbrut Support Center passerelle
センター長
岡村 忠弘

厚生労働省 令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業

中国・四国ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター

『中国・四国 Artbrut Support Center passerelle』

センター長:岡村忠弘

芸術文化活動支援コーディネーター(障害福祉):平谷尚大

芸術文化活動支援コーディネーター(舞台、音楽):北添紫光

芸術文化活動支援コーディネーター(美術):土谷 享



令和5年度事業報告書『Passerelle Report』

発行:中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

編集・デザイン:タケムラデザインアンドプランニング

イラスト:イワサトミキ

※写真は各執筆者提供によるもの

座談会「ファーストステップを通して」

編集:高橋さよ

座談会「ファーストステップを通して」

協力:滝口俊子、松葉幸子、澤岡三希子、原田幸子、長沢嘉之

協力:あいサポート・アートセンター、島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ、
愛媛県障がい者アートサポートセンター、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、岡山県子ども・福祉部障害福祉課、
広島県アートサポートセンター、薫工ミュージアム分室、香川みんなのアート活動センターKAGAWAMOVES

発行:2024年3月31日

NPO法人脳損傷友の会高知青い空／中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

住所:高知県高知市塩屋崎町2丁目12-42 2F

TEL:088-803-4100 FAX:088-803-4420

E-mail:passerelle@blue-sky-kochi.com

<https://asc-passerelle.com/>

